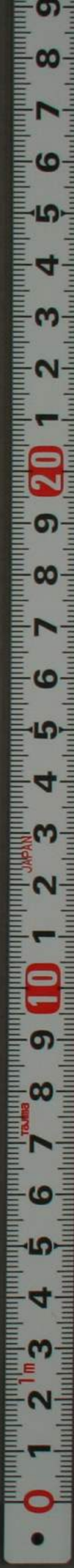


佛朗西銀行定規
コートナホレラン
ノテール規則譯文
附録

全



718
6554

司考省
刑課

佛朗西銀行定規

佛朗西

昭和九年三月十日
鶴田乙次郎
奇

コルドナボレオン附録

米人ベルベッキ氏讀授

光增重健筆記

千八百三年四月十四日ノ定規

佛朗西銀行ノ事

第一條

佛朗西銀行ノ称ヲ以テ巴里ニ於テ開タル社ハ
此ノ定規ニ從テ紙幣ヲ發行スルノ專權ヲ有ス
ル者ナリ

第二條

佛朗西銀行ノ元金ハ各一千フランクニシテ四

萬五千枚ノ證券ヲ以テ之レヲ募集シ他又準備
金ヲ備フヘシ而テ其證券ニ付テ餘金ヲ呼出ス
證券一枚ヲ以テ一千フラン
ンクヨリ餘分ノ金ヲ取ルヲ云 事ハ固ク之ヲ禁止ス
ル者ナリ 千八百六年四月廿二日ノ
法規オニ條ヲ以テ改ム

第三條

佛朗西銀行ノ證券ノ數ハ必ス簿冊ヲ以テ其
證ヲ立ツヘシ故ニ其簿冊ニハ證券所持人ノ姓
名ヲ明ニ記載スヘシ

第四條

佛朗西銀行ヨリ發行スル紙幣ハ五百フランク

ノ價アルヲ以テ最輕キモノトスヘシ 千八百四
十七年六月十日ノ法規
ヲ以テ改ム

第五條

佛朗西銀行ハ他ノ為替證券及交易ニ付テ人
諸書等ヲ利子ヲ預折シテ以テ買入ル、事ヲ得
ヘシ將タ金銀ヲ貿易スルノ外決テ他ノ高買ヲ
為ス可カラス且國ノ安寧ヲ害スヘキ事ヨリシ
テ作リタル諸證券又禁シタル高買ヨリ生シタ
ル諸證券或ハ現金ナキ空ナル交易ヨリ生シタ
ル諸證券等ヲ買フ事ヲ拒ムヘシ

第六條

諸證書ヲ買フ時預折スル其利子ハ其證書ノ
權ノ通行スヘキル別ニ意義アリ日数ヲ算シテ是ヲ
収取スヘシ而テ其日数既ニ終ニ一日ヲ餘ストモ
氏亦其利子ヲ収ルヲ得ヘシ

第七條

佛朗西銀行ニ於テ利子ヲ収テ證書ヲ買フ
事ニ付テハ該銀行ノ證券ヲ所持セル人ノ諸證
書モ亦他人ノ諸證書モ同一様ニ取扱フ可
キ者トス

第八條

千八百五十八年ノ後ニ至リ佛朗西銀行ヨリ毎
年配分スル利子ハ每百分ノ算ニ過クヘカラ
ス而テ每六ヶ月ニ之ヲ拂ヒ猶餘ス所ノ益金
レハ是ヲ準備金ニ加ヘ且其準備金ハ政府發行
スル所ノ五分ノ公債證書ニ引替ヘテ備ヘ置ク
ヘシ而テ此ノ公債證書ヨリレテ毎百ニ六分ノ外
ニ亦歲分ノ利子ヲ生スヘキ者トス將タ元ヨリ
在ル所ノ準備金モ亦是ヲ五分ノ公債證書ニ
引替ユヘシ又千八百三年ノ後六ヶ月間ノ利子

ハ銀行ノ從來ノ規則ニ依テ之ヲ分配シ千八百
四年ノ利子ハ準備金ヨリ生スル所ノ利子ヲ加
テ以テ毎百八分ニ過クヘカラス

第九條

銀行ニ於テ政府ヨリ引替ヘ得タル五分ノ公債
證書ハ銀行ノ名ヲ以テ公債ノ事務ヲ取扱フ官
署ノ簿冊ニ登記スヘシ且此ノ公債證書ハ其銀
行同社ノ免許ヲ得タル年時間政府ノ免許ヲ得
スレテ之ヲ人ニ賣リ渡ス事ヲ得ス

第十條

銀行ノ證券ヲ所持セル者ノ其内二百人ヲ以テ名
代人ト爲シ而テ此ノ二百人ハ銀行ノ大集會ヲ
爲スヘシ

第十一條

大集會ヲ爲ス可キ二百人ハ銀行ノ簿冊ニ記録
スル所ニ依テ過キシ六月ノ間證券ヲ多ク所持
セル人ニ定ムヘシ如シ證券ヲ所持セル其數ノ
同シキ者アルニ於テハ其ノ年時ノ最モ久シキ
者ニ定ムヘシ

第十二條

其大集會ハ毎年十月ニ之ヲ為スヘシ然レモ銀
行ノ規則書ヲ以テ定メタル場合ニ於テハ又別
段ニ其集會ヲ為スヲ得ヘシ

第十三條

大集會ヲ為ス各人ハ名代人ヲ出サス自ラ出席
シテ言ヲ以テ事ノ決定ヲ為スヘシ且其人縱令
ニ其證券ヲ多サ所持セルトモ只一人分而已
ノ聲ヲ言ヲ以テ決定ヲ
為ス事ヲ云フ持ツヘキ者トス

第十四條

佛朗西人民ノ權義ヲ有セサル者ハ大集會員ニ

加ハル事ヲ得ス

第十五條

大集會ニ於テ證券ヲ所持セル総人数ノ内ヨリ
撰ミタル十五人ノ幹事及三人ノ監督ヲ以テ諸
事ヲ管理視察セシムヘシ而テ其幹事及監督
ハ乃チ銀行ノ大會議員ト為ルヘシ

第十六條

其幹事ノ五分ノ一監督ノ三分ノ一ハ毎年ニ撰
舉シテ交代セシムヘシ

第十七條

十五人ノ幹事ノ其中ノ七人及三人ノ監督ハ銀行ノ證券ヲ所持セル工商ヨリ之ヲ撰挙スルニ而テ此ノ七人及三人ノ負數ハ千八百三四五年間ノ撰挙ヲ以テ漸次ニ之ヲ充テシムヘシ

第十八條

巴里ノ商人ノ銀行ノ證券ヲ所持セル者ノ中ヨリ十二人ヲ撰挙シテ諸證書類ヲ買ヒ入ル、時利子ヲ預折スル事ヲ專ラ擔當スヘキ會議負ヲ設ケ而テ其者ハ銀行ノ監督ヨリ之ヲ命シ且其四分ノ一ハ年毎ニ撰挙シテ交代セシムヘシ而テ

此ノ會議負ハ該利子ヲ預折スル事而已ニ關係シテ銀行ノ諸役人ニ向テ其意見ヲ說諭辨明スルノ權アルヘシ

第十九條

銀行ノ幹事監督并利子ヲ預折スル事ヲ關スル會議負等ノ其年期ヲ勤メ終リテ出タル者ハ爾後再ヒ其撰挙ニ預ル事ヲ得ヘシ

第二十條

銀行ノ幹事監督及利子預折ノ事ヲ關スル會議負ハ其出勤セシ日割ヲ以テ與フルノ外平日ノ

ノ給料ヲ受ク可キ者ニ非ス

第二十一條

後年ノ定規ニ依テ此ニ條不用ニ屬セシ故原書缺略ス以下ノ

第二十二條

空條皆然リ

第二十三條

銀行ノ管事ハ銀行ノ日常帳テノ業ヲ取り行ハシムヘキ為メニ任シタル者トス
千八百六十年四月廿二日ノ布

告亦十
条見合

第二十四條

銀行ノ管事ハ利子ヲ預折シテ諸證書類ヲ買フヘキ事ノ為ニ自分ノ意見ヲ以テ諸商人等ノ家

産ノ等位ヲ分テ記シタル其姓名簿ヲ作り且其

意見ニ依テ時々其姓名簿ヲ改ムル事アルヘシ

而テ此名簿ハ他日利子ヲ預折スル総テノ事ニ

付テノ基礎トナルヘキ者ナリ
千八百六十年四月廿二日ノ布告第

十條
見合

第二十五條

利子ヲ預折スル事ニ付テ管事ノ取扱方ヲ歎ク人アラハ監督並ニ管事ニ向テ同時ニ其願望ス

ル所ノ事ヲ言遣スヘシ

千八百六十年四月廿二日ノ布告第十條見合

第二十六條

大集會ノ時ニハ銀行ノ監督ハ兼テ其視察セシ
所ノ事ト又諸證書ノ利子ヲ預折スル事ニ付テ
ノ規則ヲ管事タル者ノ能ク遵守シアルト否ト
ノ申述ヲ為スヘシ

第二十七條

銀行ノ大會議負ハ此布告ノ日ヨリ一月内ニ銀
行ノ諸事務ノ規則書ヲ認メ作ルヘシ

第二十八條

銀行開社ノ免許年限ハ千八百三十三年十月ヨリ以
後十五年間タルヘシ

第二十九條

銀行ノ現時ノ幹事及監督ハ銀行ノ規則ニ定マ
リタル時間其權ヲ有シ其職務ヲ行フヘシ

第三十條

巴里ニ於テ此ヨリ以前ニ紙幣ヲ發行シタル各
銀行ハ此定規ノ布告ノ日ヨリ以後款ニ紙幣ヲ
發行スヘカラス且当月ヲ限り是レ迄發行セ
シ紙幣ヲ悉ク換収スヘシ

第三十一條

國ノ各州ニ於テ政府ノ允許ヲ得スレテ銀行ノ

營業ヲ成ス事ヲ得ス而テ其允許ヲ得テ設ケタ
ル銀行ハ政府ノ定メヨリ過教ノ紙幣ヲ發行シ
且其紙幣ハ決テ巴里ノ外ニ於テ製造スル事ヲ
得ス而テ此ノ定規ノ才三條第五條才六條才十
三條才二十四條才二十五條ハ各州ノ銀行ニモ
亦之ヲ適用スヘシ

第三十二條

各州ノ銀行ニ於テ發行スヘキ紙幣ハ二百五十
フランクヲ以テ最少價ノモノトスヘシ
年六月十日ノ定規ヲ以テ改ム

第三十三條

何人タリモ政府ノ允許ヲ得タル銀行ノ簿冊ニ
上リテ貨幣ヲ他ヨリ引留ル事ヲ得ス

第三十四條

銀行ニ關係スル訴訟ハ凡テ幹事ノ名ヲ以テス
ト至氏然レモ其現實ハ幹事ノ首長タル者ノ取
扱ヒヲ以テ為スヘキ者トス

第三十五條

政府ノ允許ヲ得タル銀行ノ其紙幣ノ印税ヲ

銀行ノ印税ヲ云 納ムル事ニ付テハ每一

年ノ時間ヲ期シテ事ノ約束ヲ取結フヲ得ヘシ

第三十六條

佛朗西銀行及各州ノ銀行ノ紙幣ヲ鑄造シ又ハ書キ替エル者ハ国ノ貨幣ヲ鑄造スル者ト同一ノ裁判ヲ為スヘシ

千八百六十六年四月廿二日ノ定規

第一章 佛朗西銀行ノ年限ノ事

第一條

千八百三十年四月十四日ノ定規第十五條第八條ノ誤ヲ以テ佛朗西銀行ニ與ヘタル十五年間ノ

免許ハ其年限ノ終リシ日ヨリ以後再ヒ二十五ヶ年ヲ延ス事ヲ得ヘシ

第二章 佛朗西銀行ノ元金且其利子ノ事

第二條

千八百三十四年四月十四日ノ定規第二條ニ從テ元金ヲ募集スヘキ各一千フランクルノ四万五千枚ノ証券ハ各一千フランクルノ証券ノ九萬枚ニ至ル迄ニ増加スルヲ得ヘシ

第三條

第二條ニ從テ新ニ製スル所ノ四萬五千枚ノ證

券ハ銀行ニ於テ定ムル所ノ時々ノ方法ニ從テ
是ヲ発出スヘシ

第四條

千八百三年四月十四日ノ定規中八條ヲ以テ定
メタル利子配分ノ割合ハ之ヲ取消シテ來ル九
月廿一日ヨリ以後ハ即チ左ニ記スル所ニ從テ
毎年利子ノ配分ヲ成スヘシ

第一項 元金ノ百ニ付六分ニ越ヘサル利子
ノ配分

第二項 其六分ノ利子ヲ配分セシ其残リノ

益金ノ三分ノ二ヲ均分シタル利子

而テ均分シタル其餘ノ一分ハ準備金ニ加フヘ
シ且其利子ハ六ヶ月毎ニ之ヲ配分スヘシ

第五條

銀行ハ今後得ル所ノ準備金ヲ其意見ニ依テ
自由ニ処置スルヲ得ヘシ

第三章 佛朗西銀行ノ役人ノ事

第一節 銀行ノ大集會ノ事

第六條

千八百三年四月十四日ノ定規中十一條中十二

條第十三條第十四條ニ從テ銀行ノ証券ヲ所持セル者ノ其中二百人ヲ以テ名代人トナシ而テ該二百人ハ一同ニ銀行ノ大集會ヲ為スヘシ

第七條

大集會負ハ乃チ銀行ノ幹事及監督人ヲ命シ又銀行ノ年分ノ諸事ノ取調ヲ為スヘシ

第八條

千八百三年四月十四日ノ定規才十五條ニ從テ設ケタル十五人ノ幹事及三人ノ監督ハ乃チ銀行ノ大會議員ト為ルヘシ

第九條

十五人ノ幹事ノ其中五人及ヒ三人ノ監督ハ銀行ノ証券ヲ所持セル工商ヨリ之ヲ撰挙スヘシ其他幹事三人ハ公ノ租税ニ關係スル上等ノ官吏ヨリ採用スヘシ

第二節 佛朗西銀行ノ管事ノ事

第十條

千八百三年四月十四日ノ定規ヲ以テ銀行ノ管事ニ任シタル事務ノ其指揮ハ以後銀行ノ奉行タル者ヨリ之ヲ為スヘシ

第十一條

銀行ノ奉行ノ次ニ二人ノ副奉行ヲ置クヘシ而
テ此二人ハ少シノ等差アリテ共ニ奉行ノ命令
ヲ奉承シ而テ奉行タル者ノ休暇或ハ苗主病氣
等ノ間ハ二人ノ者其奉職前後ノ順序ニ從テ其
事務ヲ攝行スヘシ

第十二條

奉行及二人ノ副奉行ハ是ヲ国王ヨリ命スル者
トス

第十三條

命ヲ奉レテ後職務ヲ勤ル前ニ其奉行タル者ハ
銀行ノ證券ヲ少氏百枚副奉行ハ少氏五十枚宛
ヲ所持セルノ證ヲ立ツヘシ

第十四條

奉行及副奉行ハ自分ノ華押花其族屬ノ者ノ
華押ヲ画シタル為替證書美ヲ買フ事ヲ銀行ニ
要ムルヲ得ス

第十五條

奉行ハ毎年六萬フランク副奉行ハ毎年三萬
フランクノ俸給ヲ銀行ヨリ受クヘキ者トス

第十六條

奉行及こ副奉行ハ国王ニ向ヒテ銀行ノ事ニ付
テノ官ノ定規及銀行ノ規則ヲ遵守シテ眞實ニ
事ヲ執リ行フヘキノ誓ヲ為スヘシ

第三節 佛蘭西銀行ノ大會議負ノ事

第十七條

銀行ノ大會議負ハ銀行ノ諸事ヲ監視シ利子ヲ
預托スル為メニ買入ルヘキ諸證扨ヲ監定シ銀
行中ノ諸規則及奉行ノ命ヲ受テ諸事ノ條約
等ヲ高議シ銀行ノ紙幣ヲ製造シ且是ヲ發行シ又

是ヲ換收且燒棄シ又其形ト模樣ト共ニ紙幣ニ
牽押ヲ畫スヘキ役人ノ事等ヲ議定シ又此定規
ニ從テ新ニ製スル所ノ四萬五千枚ノ証券ヲ發
出スルノ方法且以後ノ準備金ヲ処置スル事ヲ
高議シ而テ銀行ニ付テノ官ノ定規及銀行ノ規
則ニ違ヒタル諸事ヲ監察スヘシ又銀行ノ諸役
人及雇人ノ給料且銀行ノ諸入費ホノ事ハ大會
議負ニ於テ毎年一度參酌高議ヲ為スヘシ且大
會議負ハ銀行ノ年々ノ精算帳ヲ大集會負ニ
差出スヘシ

第四節 佛蘭西銀行ノ大會議負ノ分課ノ事

第十八條

十五人ノ幹事及三人ノ監督ハ銀行ノ諸事ヲ視察スル事ヲ猶一層明ニスル為ニ組合ヲ立テ、左ノ五課ニ分ツヘシ

第一 利子ヲ預折スル事ヲ管スル組合

第二 紙幣製造等ノ事ヲ管スル組合

第三 計算及帳簿ノ事ヲ管スル組合

第四 貨幣ヲ出納スル事ヲ管スル組合

第五 大藏省ト租稅官トニ關係スル事ヲ管

スル組合

而テ第五ノ組合ニハ必氏二人ノ公ノ租稅ノ官ヲ勤ムル人ノアル事ヲ要ス

第五節 佛朗西銀行奉行ノ職掌ノ事

第十九條

大會議負ノ意見ヲ伺ヒ及奉行ノ許シヲ取ラスレテハ何様ノ証書タリモ利子ヲ預折シテ買入ル、事ヲ得ス且銀行ノ輕キ役人ヲ免命スル事ハ奉行ノ權ニアルヘシ又銀行ノ事ニ關係スル

條約或ハ約束等ノ書類ニ其筆押ヲ画スヘシ又
總テ銀行ニ關係スル訴訟ハ幹事ノ名ヲ以スト
虽氏其現實ハ奉行タル者ノ取扱フヘキ者トス
而テ奉行ハ凡テノ信書類ニ自ラ筆押ヲ画スヘ
キモノト虽氏然レ氏此事及銀行ノ諸證書類
ニ限リ或ハ副奉行ニ筆押ヲ画セシムル事ヲ得ヘ
シ且大會議員又分課員ノ各集會ノ時ニハ其會
長トナルヘシ又何レノ事ヲ商量議定スルト虽
氏奉行ノ其筆押ヲ画セサル間ハ是ヲ現實ニ施
行スル事ヲ得ス而テ奉行タル者ハ銀行ノ事ニ

付テノ政府ノ定規且大會議員ノ設立シタル銀
行ノ規則ヲ普ク遵守セシムヘシ

第二十條

二人ノ副奉行ハ大會議ニ出席シテ説諭辨明ス
ルノ權アルヘシ而大會議員トノ着席ノ順次ハ
其奉職年時ノ先後ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四章

第二十一條

國議院ハ大藏省ノ申達ニ依テ銀行ノ事ニ付テ
ノ政府ノ定規且銀行ノ規則ニ違背シタル事又

銀行ノ取締ノ事或ハ其事務ノ取扱振ニ付テ起
リタル爭論又大會議員及諸小吏且雇人ホト銀
行トノ間ニ起リタル事等ニ付テ償金又免職ノ
事ヲ加ヘテ以テ民法各種ノ罰ヲ言渡スノ權ア
ルヘシ而テ其吏ハ控訴ヲ為スヲ得ヘカラス其
他ハ主任ノ官署ニ於テ其裁判ヲ為スヘシ

第二十二條

銀行ノ規則ハ政府一般ノ規則ト同シキ書キ様
ニシテ免許ヲ請フカ為ニ之ヲ國王ニ申呈スヘ
シ

第二十三條

此定規ヲ以テ改メサル千八百三年四月十四日ノ
諸條規ハ猶依然ト行ハルヘキ者トス

佛蘭西銀行ノ規則ヲ確定スル千八百八年

一月十六日ノ布告

第一章 佛蘭西銀行ノ事

第一條

佛蘭西銀行ノ元金ハ各一千フランクノ九萬枚ノ
證券ヲ以テ募集シテ其他又準備金ヲ備フヘシ
而テ其証券ノ番号ト其持主ノ姓名トヲ各一枚

別ニシテ簿冊ニ記録シ置クヘシ

第二條

佛蘭西銀行ノ証券ヲ所持セル人ハ其証券ノ数枚ナルヲ論セス必ス其金數ヲ合算シテ其總計ノ高ニ至ル迄而巳ヲ以テ他ノ損害ヲ引受クル者ナリ

第三條

銀行ノ証券ハ外國人ノ之ヲ買ヒ求ル事ヲ得ヘシ

第四條

銀行ノ証券ヲ人ニ賣リ渡ス者アル時ハ銀行ノ簿冊ニ其姓名ヲ書キ直スヘシ而此ノ場合ニ当リ裁判所ヨリ其故障ノ報知ノアラサルニ於テハ是迄ノ持主又ハ其名代人ノ申述書ニ持主ノ筆押ヲ画シ而テ之ヲ銀行ノ簿冊ニ登記スヘシ且其申述書ハ商法會社世話人ノ筆押ヲ以テ其証ヲ立ツ可シ

第五條

銀行ノ証券ハ千八百六年八月十四日元老院ノ決議書ニ從テ國王ヨリ典フル所ノ世々ニ傳フ

一キ尊称ニ付属スル物ノ一分トナルヘシ

第六條

前條ニ記スル所ノ證券ハ千八百六年八月十四
日元老院ノ決議書及民法第八百九十六條ノ第
三項ニ從テ之ヲ世々ニ傳ヘ或ハ復タ原始ノ所
ニ返ルヘキモノトス 其人死亡後嗣ノ者
無キ時ノ類ヲ云フ

第七條

銀行ノ證券ヲ所持セル其人ノ望ニ依テハ此レ
ヲ不動産ノ種類ト為ス事ヲ得ヘシ而テ所持主
タル者ハ定レル書例ヲ以テ其更ヲ銀行ノ簿冊

ニ登記シ爾後其証券ハ他ノ不動産ト同様ニ民
法ノ各規及其¹フリウイレ¹シ¹ノ權及ヒ¹イホ¹テ¹
ク¹ 民法才二千九十五條以下
又才二千四百條以下見合ノ權ノ定規ニ從ヒ
且之ヲ他人ニ賣リ又ハ¹フリウイレ¹シ¹又¹イホ¹テ¹
¹ク¹ノ權ヲ¹滅¹ヒ¹淨¹ム¹ル¹事¹ヲ¹為¹ス¹ヲ¹得¹ヘ¹シ

第八條

銀行ハ何様ノ譯タルニ論ナク千八百三年同六
年ノ定規及此規則ヲ以テ許シタル外ノ事件ヲ
為シ行フヲ得ス

第九條

銀行ノ為ニ行フヘキ事件ハ左ノ如シ

第一 為替證書及高買ニ付テノ諸證書類ヲ

利子ヲ預折シテ之ヲ買フ事トス而テ

其諸証書類ハ三月以内ニ於テ時日ヲ

定メテ必ス金ヲ拂フヘキ物ニシテ且金

銀ノ拂方ニ付テ宜キ評判ヲ得タル

人ノ牽押アルヘシ

第二 人民又ハ官署或ハ施濟院ホヨリ銀行

ニ依頼ヲ為シテ出シタル諸證書ノ金

ヲ他ヨリ請取りテ之ヲ遣ル事ノ心配

ヲ為ス事

第三 人民又ハ官署或ハ施濟院ホヨリ預リタ

ル所ノ金子ヲ保シ而テ其預ケタル本

人ノ申付シ人又ハ其本人自ラ来リテ

請取ル事ヲ要スル時ニ其金ヲ拂ヒ渡

スヘシ將タ此等ノ預リ金ハ縦令ヒ受

ケ拂ヒノ勘定ヲ永ク続テ為スヘキ者

ト虽モ其拂ヒ渡ス金數ハ其受取り預

カル所ノ負數ニ越エル事ヲ得ス

第四 各種ノ證書類又金銀ノ地金及貨幣ヲ

預リ保ツ事

第十條

交易ノ為メニ銀行ヲ設クルノ必要ナル模様アルニ於テハ各州ノ各市ニ其支店ヲ開クヘシ而テ銀行ノ大會議員ハ其方法ヲ議定シテ免許ヲ請フカ為ニ之ヲ政府ニ申呈スヘシ

第十一條

佛蘭西銀行ノ本支店ニ於テ利子ヲ預折シテ買入ルヘキ諸證書ハ其證書ノ本人ノ命令スル人ニモ金子ヲ渡スヘキ事ヲ認メアリテ而テ印紙

ヲ貼付シ且三人以上ノ華押ヲ画シタルモノナル

第十二條

前條ノ定規アリト虽モ銀行ノ本支店共ニ亦或人ノ花押アル證書ヲ買フ事ヲ得ヘシ然レモ此ノ場合ニ於テハ其華押ヲ画セシ二人ハ兼テ金銀ノ拂方ニ付テ宜キ評判ヲ得タル者ニシテ且真ノ高買品ヨリ生シタル證書ニ限り而テ其證書ノ持主ハ證書上ノ金貨ト同シキ銀行ノ證券又ハ五分ノ公債證券ヲ添テ以テ其保承ヲ為ス

前條ニ謂ユル銀行ノ証券或ハ五分ノ公債証券
ヲ以テ保承ヲ為シタルト虽其期ニ至リ証券
ニ華押ヲ画セシ二人ノ者ニ向ヒ挿金ヲ為スヘ
キ事ノ催促ヲ為シ而テ如シ其金ヲ挿ハヌ事ニ
定マルカ又ハ官署ニ於テ挿フヘキ事ノ拒ミ書
ヲ認メタル後ニ非レハ銀行ハ其証券又其公債
証券ヲ以テ勝手ニ償ヒヲ取ル事ヲ得ス

第十四條

諸証券ヲ買フテ利子ヲ預折スル事ニ付テ政府ノ
別段ノ許シヲ以テ設ケタル殊異ノ規則アル非
レハ其利子ノ割合ハ何レノ銀行ニ於テモ俾朗
西銀行ト同一様タルヘシ

第十五條

銀行ヲ設ケタルニ付テ巴里ノ小商人ノ利益ト
成ルヘキ為メニ銀行ヨリ保承ヲ為シタル二人
ノ華押アル諸証券ヲ買取ル人ノ其預折ス
ル利子ハ銀行ニテ預折スル利子ト同シ割合
ヨリ過キサル様ニ銀行ハ其方法ヲ設ケテ而テ

第二月十五日ヨリ始メ行フヘシ

第十六條

第九條ノ第二項ニ所謂ノ銀行ニ依頼スル為ニ
差出シタル証書ノ或ハ公債ノモノニシテ且金
ヲ拂フヘキ日時ノ定リアルニ於テハ幾分ノ前
金ヲ其人ニ遣ル事ヲ得ヘシ

第十七條

銀行ハ現ニ其入用アルニ於テハ政府ノ允許ヲ
受ケテ不動産ヲ賣買シ又ハ取換ヘテ為ス事ヲ
得ヘシ而テ銀行ハ重大ナル銀行ト且巴里ノ市

街ノ壯麗ナルトニ相当シタル家屋ヲ建築シ其
費用ハ準備金ヲ以テ之ヲ辨スヘシ

第十八條

銀行ハ預リ物ニ付テ其請取書ヲ出シ而テ左ノ
事ヲ記載スヘシ

第一 預リ物ノ種類及其概價

第二 預ケ人ノ姓名且住所

第三 預ケタル日時ト品物ヲ返スヘキ其日

時

第四 預ケ物ヲ記載セル其帳簿ノ番号

而テ他日其請取書ヲ以テ他人ノ之ヲ請取ル事
ト又之ヲ他人ニ譲リ渡ス事ヲ為スヲ得ス

第十九條

銀行ハ預リ物ノ概價ニ從テ其預リ債ヲ取ルヘ
キ者トス而テ其割合ハ大會議員ノ之ヲ議定
シテ而テ政府ノ允許ヲ受クヘシ

第二十條

銀行ハ其預ルヘキ品ノ如シ金銀ノ地金或ハ外
國ノ貨幣ナルニ於テハ歲分ノ前金ヲ其人ニ遣
ル事ヲ得ヘシ

第二十一條

銀行ノ配分スル利子ハ千八百六年四月廿二日
ノ定規第四條ニ從テ六ヶ月毎ニ之ヲ拂フヘシ
然レモ銀行ニ得ル所ノ利益如シ毎百ニ六分ヲ
以テ拂フヘキ割合ニ不足ナルモハ準備金ヲ以
テ其不足丈ヲ補フヘシ

第二十二條

銀行ハ六ヶ月毎ニ過シ六ヶ月ノ間ニ濟了リシ
總テノ事ト且利子ヲ分配シタル其ノ計算帳ヲ
政府ニ申呈スヘシ

第二十三條

銀行ハ其雇人ノ事ノ為ニ別段ノ準備金ヲ貯フ
ヘシ而テ此ノ準備金ハ其給料ノ幾分ヲ積置シ
其金ヲ以テ成ル者トス而テ其積金ノ割合且其
積金ヲ預ケル事及其積金ヲ他日配分スヘキ等
ノ方法ハ銀行ノ大會議負之ヲ議定シ而テ政府
ノ允許ヲ受リヘシ

第二章 銀行ノ職制及事務ノ事

第二十四條

銀行ノ大會集ハ毎年一月ニ之ヲ為スヘシ而テ

其負ハ大會議負ヨリ之ヲ招集シ銀行ノ奉行其
會長トナルヘシ

第二十五條

銀行ノ幹事及監督ハ大集會負ノ投票ノ其過半
數ヲ得シ者ヲ命スヘシ而テ初度ノ投票ニテ其過
半数ヲ得ル者無キニ於テハ再ヒ復タ投票ヲ為
スヘシ而テ或ハ猶然ル時ハ其中二人ノ最モ投
票ヲ多ク得シ者ヲ取リテ亦其投票ヲ為シテ
以テ其一人ヲ定ムヘシ如シ或ハ其二人ノ者投
票ノ數ヲ得ル多少同キニ於テハ直ニ其年長ノ

者ヲ取ルヘシ

第二十六條

辭職又ハ死去セシ者ノ代リニ命セラレタル幹
事且監督ハ其辭職又死去セシ者ノ年期ノ残レ
ル間而已其職務ヲ勤ムヘシ

第二十七條

辭職又死去セシ者アリテ幹事十二人ニ至リ或
ハ亦監督ノ只一人ニ至ル迄ニ減員シタル時又
監督ノ者悉テ同意一致シ及大會議員ノ高議ニ
テモ至当トスルニ於テハ別段ニ大集會員ヲ招

集ニテ集會ヲ為サレムル事アルヘシ

第二十八條

奉行及副奉行ハ其奉職中其所持セル銀行ノ証
券ヲ人ニ賣リ渡ス莫ク得ス

第二十九條

銀行ハ奉行及副奉行ノ役所並ニ其住居スヘキ
家屋及器具且其他ノ附属品ニ付テノ入費ヲ出
スヘシ

第三十條

三人ノ奉行ハ大會議員ニ代リテ銀行ノ諸事ノ

年分ノ計筭帳ヲ大集會ニ出スヘシ

第三十一條

三人ノ奉行ハ大會議員ノ分課員及臨時ニ任シタル検査員ノ其首長トナルヘシ

第三十二條

三人ノ奉行ハ諸事ノ延滞セサル様ニ銀行ニ日勤ヲ為スヘシ

第三十三條

三人ノ奉行ハ諸商人ノ家産ノ等位ヲ分チタル名簿ヲ作ルルニ大會議員ヨリ其佐ケヲ為スヘシ

キ事ヲ命シ而テ其名簿ハ毎年一度之ヲ改正スヘシ

第三十四條

銀行ノ大會議員ハ左ノ各員ヲ以テ之ヲ組立ツヘシ

奉行及副奉行 幹事 監督

此ノ各員ハ即チ巴里ニ住居シ而テ其出勤セル日割ヲ以テ其給料ヲ受クヘキ者トス

第三十五條

大會議員ハ銀行ニテ預折スヘキ利子ノ割合

又利子ヲ預折スル為ニ諸証書ヲ買フヘキ其金額及其買入ル可キ諸證書上ノ時限ノ事等ヲ議定スヘシ

第三十六條

銀行ノ諸計筭ハ之ヲ大會議員ニ告知スヘシ而テ大會議員ハ每一週ニ少クハ一度ノ集會ヲ為スヘシ

第三十七條

大會議員ノ集會ハ少クハ十人ノ出席アリテ且其中一人ハ監督ノ者アルニ非サレハ事ノ決定ヲ

成スヲ得ス而テ其集會ハ必ス投票ノ過半数ヲ以テ事ヲ決定スヘシ

第三十八條

銀行ノ紙幣ヲ新ニ製造シ或ハ之ヲ發行スル事ニ係レル大會議員ノ會議ハ必ス監督ノ可否ニ從テ決定ヲ為スヘシ如シ監督三人ノ者同意一致シテ其議ヲ拒ム時ハ其事ヲ為シ行ヲ得ス

第三十九條

大集會員ニ出スヘキ銀行ノ毎年ノ計筭各ハ大會議員之ヲ調査シテ其計筭ノ當否ヲ定ムヘシ

第四十條

大會議負ノ分課負及臨時ニ任セラルヘキ検査
負ハ大會議負ニテ投票ヲ為シテ其過半数ヲ得
ル者ヲ取テ新ニ之ヲ命シ又分課負ヲ任シ替ヘ
或ハ其再勤ヲ命スヘシ

第四十一條

幹事及監督ハ其命ヲ受テ未タ事務ヲ執ラサル
前ニ三十枚ノ銀行証券ヲ所持セルノ其證ヲ
立ツヘシ而其証券ハ在勤中此ヲ人ニ賣ル事ヲ
得ス

第四十二條

監督ハ銀行ノ一切ノ事ヲ監察シ而テ其意見ニ
依テ何時タリモ金銀又ハ諸帳簿ヲ調査スル
事ヲ得ヘシ

第四十三條

監督ハ大會議負中ニ於テ事ヲ決スルノ權アラ
スト虽モ然レモ銀行ノ諸取締メ且銀行ノ利
益トナルヘキ諸事ノ方法ヲ申立ルノ權アルヘシ而
テ如シ其事ノ用ラレサルニ於テハ其故ヲ大會議
負ノ會議録ニ記載シ置クノ權アルヘシ

第四十四條

監督ハ紙幣製造等ノ事ヲ管シ又計筭及諸帳簿ノ事ヲ管スル兩課ノ中ニ必ス加ハルヘキ者トス

第四十五條

監督ヨリ利子ヲ預折スル事ヲ擔當セシムル為ニ命スヘキ會議員ハ千八百三十四年四月ノ定規ハ十八條ニアリ大集會員ヨリ出ス所ノ名書キノ中ヨリ之ヲ撰任スヘシ而テ其名書キハ撰任スヘキ現員ノ其三倍ノ人数ヲ記載シ置クヘシ

第四十六條

利子預折ノ事ヲ擔當セシムル為ニ任シタル會議員ハ其未タ事務ヲ執ラサル前ニ十枚ノ銀行証券ヲ所持セル事ノ其證ヲ立ヘシ而テ在勤中ノ之ヲ人ニ賣ル事ヲ得ス

第四十七條

利子預折ノ事ヲ擔當スル會議員ハ其命ヲ受ケシ先後ノ次序ヲ逐テ利子預折ノ事ヲ管スル分課員ヨリ呼出サル可キ者トス而テ其給料ハ其出勤セシ日割ヲ以テ之ヲ受クヘシ

第四十八條

利子預折ノ事ヲ管スル分課員タル幹事及利子
預折ノ事ヲ擔當スル會議員ハ其先後輩ノ順次
ヲ逐テ出席シテ事ヲ勤ムヘシ而テ其分課員ハ
十五日間続テ出勤ヲ成シ且每一週少凡三度
ノ集會ヲ為スヘシ

第四十九條

利子預折ノ事ヲ管スル分課員及利子預折ノ事
ヲ擔當スル會議員ハ各人出ス所ノ諸証書類ヲ
調査シ銀行ノ各規ニ照シテ之ヲ取捨スヘシ

第五十條

分散人ノ其身分未ダ平常ニ復セサル間ハ銀行
ニ於テ其者ノ證書類ヲ取ルヘカラス

第五十一條

銀行ハ分散セシ者ノ姓名ヲ記シタル簿冊ヲ所
持スヘシ而テ其姓名住所且分散セシ年時并
ニ其身分ノ平常ニ復セシ者アレハ亦其年時
ヲ記載スヘシ

第五十二條

紙幣製造等ノ事ヲ管スル分課員ハ每六ヶ月ニ
其三ノ一ヲ交代セシムヘシ且其者ハ六ヶ月ヲ過

コセシ後ニ派レハ再ヒ復タ其課ニ加ハル事ヲ
得ス而テ此ノ分課中ニハ監督タル者ノ必ラス加
リアルヘキ者ナリ

第五十三條

紙幣製造等ノ事ヲ管スル分課負ハ紙幣ヲ製
造シ及之ニ画印シ且之ヲ簿冊ニ記録シ或ハ之ヲ
箱ニ藏ムル等ノ事ノ別段ノ任ヲ受タル者トス

第五十四條

紙幣製造等ノ事ヲ管スル分課負ハ紙幣ノ収換
スヘク又棄却スヘキモノヲ調査シ又其棄却シ

焼却スルニ至ル迄ノ其際ノ諸事ノ監察ヲ為ス
ヘシ

第五十五條

紙幣製造等ノ事ヲ管スル分課負ハ其各種ノ事
ニ付キ其手續書ヲ認メテ紙幣ノ事ヲ統轄スル
主事及監察且首長ノ面前ニ於テ別段ノ簿冊ニ
登記シ而テ其事ヲ大會議負モ申述スルヘシ

第五十六條

紙幣製造等ノ事ヲ管スル分課負ハ各事ニ依テ
毀損シタル紙幣ノ事ニ付テ他ノ歎願請求ヲ

為ス事ヲ調査シ而テ其事ヲ大會議負ニ申述スル
ヘシ

第五十七條

計算及帳簿ノ事ヲ管スル分課負ハ每六ヶ月ニ
其三ノ一ヲ交代セシムヘシ且其者ハ六ヶ月ヲ過
コセシ後ニ非レハ再ヒ復タ其課ニ加ル事ヲ得
ス而テ此分課中ニハ監督タル者ノ必ス加リア
ルヘキ者ナリ

第五十八條

計算及帳簿ノ事ヲ管スル分課負ハ銀行ノ計算
及帳簿且現ニ存ル所ノ諸証卷等ヲ視察シ又其
規則ニ違テ買入レ且請取リシ諸証卷等ヲ殊ニ
注意シテ調査發覺シ而テ其手續卷ヲ簿冊ニ登
記シ而テ其事ヲ大會議負ニ申述スルヘシ

第五十九條

計算及帳簿ノ事ヲ管スル分課負ハ分散人ノ名
簿及商人家産ノ等位ヲ分テ記シタル名簿ヲ
調査スルノ權アルヘシ

第六十條

貨幣出納ノ事ヲ管スル分課負ハ其順序ニ從テ

毎月其三ノ一ヲ交代セシムヘシ

第六十一條

貨幣出納ノ事ヲ管スル分課員ハ每一週ニ少ク
一度金箱ニ現存セル貨幣ノ負数ト其違拂ヒノ
帳簿トヲ勘合スヘシ而テ其勘合セシ手續書ヲ
簿冊ニ登記シ且其事ヲ大會議員ニ申述スル
ヘシ

第六十二條

大藏省及ヒ租税官ニ關係スル事ヲ管スル分課
員ハ每六ヶ月ニ其五ノ一ヲ交代セシムヘシ而テ

其者ハ六ヶ月ヲ過コセシ後ニ非レハ再ヒ復タ
其課ニ加ル事ヲ得ス且此分課員ハ大藏省及ヒ
租税官ニ關係スル事ヲ調査スルノ權アルヘシ
而テ其調査ヲ為シタル手續書ヲ簿冊ニ登記
シ而テ其事ヲ大會議員ニ申述スルヘシ

千八百八年五月十八日佛朗西銀行ノ支店
ヲ開設スル事ノ布告

第一條ヨリ第八條ニ至迄原書ニ之ヲ削
略ス

第九條

佛朗西銀行ハ其支店ヲ開設スル市邑ニ於テ其
紙幣ヲ發行スルノ專權ヲ有スル者ナリ

第十條ヨリ第四十一條ニ至迄原書之ヲ
削畧ス

第四十二條

千八百三年四月十四日ノ定規第六條第七條
各証

折ノ利子ヲ預第十條第十四條
銀行ノ大第三十

一條第三十二條
銀行ノ紙幣ヲ第三十三條
銀行ノ

及千八百六年四月廿二日ノ定
銀行ニ向テノ國銀行ノ支店ニ

規第二十一條
銀行ニ向テノ國銀行ノ支店ニ

モ亦之ヲ適用スヘシ

第四十三條

千八百八年一月十六日ノ布告佛朗西銀行規則

ノ第四條
銀行ノ証券ヲ他人第五條第六條第七條
銀行

第十二條第十三條第十四條第十五條
銀行ノ常第十一條

一條
証書ノ利子ヲ第十八條第十九條第二十條

預ノ事第二十五條第二十六條
銀行ノ幹事等第

四十二條第四十三條第四十四條
監督ハ銀行

ノ支店ニモ亦之ヲ適用スヘシ

司法官

大正八年九月三日銀行ニ他ノ物品ヲ
預ル事ニ付テ其大會員ノ議定セシ事ヲ
可許スルノ布告

第一條

銀行規則ノ第九條第十八條第十九條ニ從テ預
ルキ品物ハ左ノ如シ

第一 本國及外國政府ノ諸公債証書

第二 各社ノ資本證券及諸條約書類

第三 為替證書及諸証書

第四 金銀

第五 本國及外國ノ貨幣

第六 金剛石

第二條

品物ノ預リヲ為スニハ其概價ニ準シテ歲分ノ
預リ貸ヲ前取リスヘシ而テ其預リ貸ハ六ヶ月
ヲ一期トシテ其品物ノ概價ノ百ノ一ノ其八分ニ
過ルヲ得ス而テ六ヶ月ヨリ短キ時間ト雖亦同
キ預リ貸ヲ取ルヘシ如シ六ヶ月ヲ過キテ其人
其預ケ品ヲ取テサル時ハ自然ト再六ヶ月ノ時
間ノ延タル者トス然レモ五千フラン以下ノ

概價アル品物ノ預リ貸ハ即チ五千フランクノ
概價アル品物ノ預リ貸ト同様ニ之ヲ取ルヘシ

第三條

品物ヲ預ケタル人ノ其約束セシ時期ノ未決ガ
ル中ニ其品物ヲ取ル事ヲ欲セハ前取シタル
其預リ貸ハ尽クニ銀行ノ利得トナリテ其割合
ヲ返辦スルニ及ハス

千八百三十四年五月十七日佛朗西銀行ノ
事ニ付テノ定規

第一條

千八百三年四月十四日ノ定規第八條及千八百
六年四月廿二日ノ定規第四條ニ從テ佛朗西銀
行ノ其所得ノ益金ヲ以テ備フヘキ準備金ノ總
高ハ十^九ミリヨ^九ン^千一^九フランクニ定ムル者ナリ
而テ此金莫ハ銀行ノ家屋ヲ築造シ或ハ又後
ニ家屋ヲ造リ添ヘタル其費用ヲ除キタル者ニ
レテ而テ是ヲ政府ノ五分ノ公債証書ノ五十萬
枚ニ直シ置クヘシ

第二條

準備金ヨリ取替ヘタル金莫ヲ返シ充テ、以テ

司法官

第一條ニ定ムル所ノ準備金ノ算數ヲ全フスル
為メ外ハ銀行ノ所得ノ益金ヨリ差引クヘキ
事ハ更ニ無キ者ナリトス

第三條

千八百八年一月十六日ノ布告第十六條ニ於テ
佛朗西銀行ニ許シタル事ハ押金ノ其日時ノ定
マリ無キ公債諸証書ニモ亦之ヲ用エル事ヲ
得ヘシ

第四條

第三條ノ事ヲ行フニ付テハ銀行規則ハ別ノ定

規即千八百三十四年
六月十五日ノ定規ヲ以テ之ヲ定ム能ハ者ナ

第五條

不動産ト為シタル銀行ノ証券ヲ再ヒ動産ニ直
スニハ書付ヲ以テ其事ヲ銀行ニ申告シ且其書
付ニハ必ス已レ其証券ノ持主タル事ノ証ヲ立
ツヘシ而テ巴里ノ「イポテークル」ノ役所ノ簿冊
ニモ亦其動産ニ直シタル事ヲ登記スヘシ

第六條

此定規ト抵觸スル從來ノ定規ハ以後之ヲ廢止

司法省

スレシ

千八百三十四年五月十七日ノ定規第三條
ノ事ニ付テノ規則ヲ設ケル同年六月十五
日ノ定規

第一條

佛朗西銀行ノ大會議員ハ每週間ニ成ス所ノ集
會ノ其初度ニ拂金ノ日時ノ定マリナキ諸公債
証書ニ付テ前貸スヘキ其金額ヲ議定スルヘシ

第二條

諸公債証書ニ付テ前貸スヘキ金數ノ割合ハ其

証書ノ百ノ五分ハ其四分ニ越エカラス而テ
其價ハ必ス其前日ノ諸公債証書賣買相場ニ準
レテ之ヲ定ムヘシ而テ其証書ハ現品ヲ以テ其時
直ニ銀行ニ差置ヘキ者ニ限ルヘシ

第三條

諸公債証書ヲ以テ銀行ヨリ金ヲ前借リスル人
ハ三ヶ月ノ間ニ其金ヲ返却スヘキ事ヲ牽押ヲ
画シタル書付ヲ以テ其証ヲ立ツヘシ

第四條

前條ニ記スル返金ノ事ヲ保承シタル其証書ニ

同法第

ハ銀行ニ預ケ置ク所ノ公債証書ノ其相場ノ自
然百ノ九十二下落スル時ハ其下落セシ丈ノ償ヒ
ヲ成シテ返金スヘキ事ヲ記載シ置クヘシ

第五條

公債証書類ヲ以テ銀行ヨリ金ヲ借ル人ノ第三
條第四條ニ記スル所ノ約束ヲ違フニ於テハ銀
行ハ高法會所ノ世話ヲ以テ其証書ノ全數將夕
歲分數丈ヲ賣却スルノ權アルヘシ而テ其証書
ヲ賣却スルニ付テノ時間ヲ定ムル左ノ如シ
其一 公債証書類ノ相場ノ如シ百ノ九十二下

六ノ下ニ下落セル時ハ其償ヒヲ為シテ返金スヘ
キ事ヲ別段ノ保証ヲ以テ約束スヘシ
而テ其償ヒ金ヲ添ヘサル時ハ其事ヲ
第一本人ニ報知シ三日ノ後ニ至リテ其証書
ノ賣リ拂ヒヲ為スヘシ

其二 全ク返金ノ約束ヲ連フトル其時ハ其事
ヲ本人ニ報知セスシテ翌日ニモ其證
書ヲ賣リ拂フ事ヲ得ヘシ
而テ銀行ハ其公債証書ヲ賣却シテ生シタル金
ヲ以テ其賣拂ヒニ付テノ諸費且其利子ヲ差引シテ

而テ猶餘金アルハ之ヲ本人ニ返スヘシ又此條ノ各規ハ第三條第四條ニ記スル返金ノ約束ノ証書ニ記載シ置テ其本人ハ前以テ承知シアルヘシ

千八百四十年六月三十日佛朗西銀行ノ免許年限ヲ延ス事ノ定規

第一條

千八百三年四月十四日同六年四月廿二日ノ定規ヲ以テ佛朗西銀行ニ免許セシ年限ハ千八百六十七年十二月三十一日迄ニ差延スヘシ然レ

凡千八百五十五年ヨリ前兩年ノ議院ハ其決議ニ依テハ或ハ千八百五十五年十二月三十一日迄ニ改メ編ムル事アルヘシ

第二條

佛朗西銀行ノ元金ハ各一千フランクノ六萬七千九百枚ノ証券ヲ以テ之ヲ集ムヘシ而テ政府別段ノ定規アルニ非レハ之ヲ増減スル事ヲ得ス

第三條

千八百八年一月十六日ノ布告第十二條ニ記ス

ル所ノ保証ノ為ニハ政府ヨリ発行スル公債証
書ノ各種類ヲ用エル事ヲ得ヘシ

第四條

銀行ニ於テ諸証書類ノ利子ヲ預折スル事ハ定
マレル休日ノ外ハ毎日其事ヲ執リ行ヘキ者ナ
リ

第五條

大藏卿ハ毎三ヶ月ニ銀行概畧ノ景況ヲ政府ノ
新聞紙等ヲ以テ公告ヲ為シ而テ毎六ヶ月ニ其
六ヶ月間ニ結了セシ諸事ト且其分配スヘキ

利子ノ負数トス公告スヘシ

第六條

佛蘭西銀行ノ支店ハ其大會議員ノ歎願ニ依リテ
政府ノ命令アルニ非レハ之ヲ開設廢止スルヲ得
ズ而テ其命令書ハ政府ノ通常規則書程ノ體
裁ノモノナルヘシ

第七條

千八百八年五月十八日ノ布告各條規ノ以後其
改正ヲ要スルハ大會議員ノ申立ニ依テ發シタ
ル政府ノ命令ニ從テ其改正ヲ為スヲ得ヘシト

第五其第四十二條及第四十三條ノ事ハ政府ノ
定規ニ依ルニ非サレハ之ヲ改正スル事ヲ得
ス

第八條

各州ノ銀行ハ政府ノ定規ニ依ルニ非レハ之ヲ
設立スル事ヲ得ス將タ現今存スル所ノ各州
銀行ノ其年限ノ延シ且其規則ノ改正ハ政府
ノ定規ニ依ニ非レハ亦之ヲ為ス事ヲ得ス

第九條

此定規布告ノ後佛朗西銀行ノ納ムヘキ紙幣

印税ノ高ハ一ヶ年間銀行ヨリ發出セシ紙幣ノ
每一ヶ月ノ數ヲ算計シテ其多寡ノ月ヲ捨其中
間ノ月ニ準シテ其割合ヲ定ムヘシ而テ千八
百四十一年一月一日以後ハ官ノ免許ヲ得タ
ル各州ノ銀行ニモ亦此事ヲ適用スヘシ
千八百四十一年三月廿五日佛朗西銀行支
店ノ規則ノ事ニ付テノ布告

第一章

佛朗西銀行ノ支店ヲ設クル事

第一條

佛朗西銀行ノ各支店ハ直ニ其佛朗西銀行ノ支

配ヲ受クヘキ者ナリ

第二章

千八百四十年六月三十日ノ定規第六條ニ從テ
佛朗西銀行ノ支店ハ其大會議員ノ歎願ニ依リテ
政府ノ命令アルニ非レハ之ヲ開設廢止スルヲ
得ス而テ其各支店ノ元金ノ高ハ佛朗西銀行ノ
大會議員ニ於テ之ヲ議定スヘシ

第三章

銀行支店ノ計算ノ事ハ佛朗西銀行ノ諸計算
ヲ為ス事ノ其一部分タルニシテ

第四章

支店ハ六ヶ月毎ニ其損益ヲ算計シテ其數ヲ佛
朗西銀行ノ帳簿ニ登記スルヘシ

第五章

支店年分ノ費用ハ佛朗西銀行ノ大會議員ニ
於テ之ヲ議定スヘシ

第二章

第六條

支店ノ行フヘキ事柄ハ佛朗西銀行ノ行フヘキ
事ト同一様ナルヘシ

第七條

支店ニテ諸證書ノ利子ヲ預折スル其割合ハ
佛朗西銀行ノ大會議負ノ之ヲ議定スヘキ者
トス

第八條

今八百八年五月十八日ノ布告第九條ニ從テ佛
朗西銀行ハ其支店ヲ開キシ市邑ニ於テ紙幣ヲ
發行スルノ專權ヲ有スル者ナリ

第九條

支店ヨリ發行スル紙幣ハ佛朗西銀行ヨリ渡

ニ備ヘタル者ニシテ其紙幣ノ表面ニ該支店
ノ号ヲ記シ而テ大會議負ハ其記号ヲ為スノ法
及其紙幣ニ華押ヲ画スヘキ銀行ノ役人ヲ定メ
且其紙幣ハ二百五十フランノモノヲ以テ最
抵價ノモノトスヘシ

第十條

支店ヨリ發行スヘキ紙幣ヲ新ニ製造シ又之ヲ發
行スル事ニ付テノ大會議負ノ決議ハ現ニ其事
ヲ施行スル以前ニ必ス其監督ノ可否ヲ取ルヘ
シ

第十一條

銀行支店ヨリ發行セシ紙幣ハ必ス其支店ニテ
現金ノ引替ヲ為スヘキ者ト雖モ或ハ銀行ノ大
會議員ノ意見ニ依テハ佛朗西銀行ニテ其引替
ヲ為スコトアルヘシ又佛朗西銀行ヨリ發行セシ紙
幣モ其大會議員ノ議定或ハ其設立スル規則ニ
テ現金ノ引替ヲ其支店ニテ為ス事アルヘシ
第三章 佛朗西銀行ノ證券ヲ支店ノ簿冊ニ
記載スル事

往居スルニ於テハ其証券ヲ其支店ノ別段ノ帳
簿ニ登記スル事ヲ得ヘシ其大小ニ準テ十二人

第十四條

銀行支店ノ帳簿ニ登記スル事ヲ依頼スル其証
券ハ他日現ニ他ノ証券ノ保承ヲ成セルモノ、
外ハ再ヒ佛朗西銀行ノ帳簿ニ登記スル事ヲ得
ヘシ

第十五條

支店ハ前金ヲ借ラン事ヲ求メ及他ノ証券ノ保
承ノ為ニ出ス所ノ諸公債証券ハ總テ佛朗西銀

司法省

行人名ヲ以テ其帳簿ニ記載シ置クヘシ

第十六條

此章ノ各條ニ從テ支店ニ依頼スル所ノ銀行証
券及其預クル所ノ諸公債証券書ノ其利子ハ銀行
債記各ノ利子ヲ政府ヨリ受取リテ其
本人ニハ之ヲ銀行ヨリ拂フ事ナリ 支店ニ於
テ之ヲ拂フヘキ事トス

第四章 銀行支店ノ職制ノ事

第十七條

各支店ニハ一人ノ主長且其大小ニ準シ十二人
以下六人以上ノ幹事及三人ノ監督ヲ置ヘシ

而テ其幹事監督ハ必ス其支店所在ノ市街ニ
居住スルヘシ

第十八條

其支店ノ監督ハ佛朗西銀行ノ大會議員ヨリ
之ヲ命スヘキモノトス

第十九條

支店ノ幹事ハ現ニ撰擧スヘキ人負ノ其倍數ノ
姓名書ヨリ選テ佛朗西銀行奉行ノ之ヲ命スヘ
キ者トス又支店ノ帳簿ニ登記シタル銀行ノ証
券ノ其總金數ノ兼テ定タル支店ノ元金ノ半數

同法第

ニ未タ至ラサル欲將タ其支店ノ証券ヲボムル者ノ未タ五十人ニ至サルニ於テハ其姓名書ハ銀行ノ大會議員ニテ之ヲ認メ而テ其奉行ニ申呈スヘシ然レ其人数又ハ其金数ノ不足セサル時ハ於テハ支店ノ証券ヲ最多ク所持セル五十人ノ者ニテ其選挙スヘキ現員ノ姓名書ヲ作り且銀行ノ大會議員ニ亦同様ノ姓名書ヲ作ヘシ而テ証券持主ニテ其姓名書ヲ作ルヘキ者ハ銀行奉行ヨリ定ムル時間ニ支店ノ主長ヨリ之ヲ招集シ且主長ハ其會長トナルヘシ而シテ且其姓名書ヲ選上作ルノ順序ハ千八百八一年一月十六日ノ銀行規則ノ第二十五條第二十六條ニ從フヘシ

第二十條
支店ノ幹事及監督タルノ年限ハ之ヲ三年ト定メ其三ノ一ハ毎年之ヲ交代セシムヘシ而其初ニケ年間ハ濶取ヲ以テ其退リヘキ者ヲ定メ且其者ハ直ニ再ヒ其選挙ニ預ル事ヲ得ヘシ

第二十一條
支店ノ幹事及監督ハ定俸ナシト虽レ其出勤ノ

日割ヲ以テ其給料ヲ受ヘシ

第二十二條

支店ノ主長ハ銀行奉行ノ選ミタル三人ノ姓名
書キヨリ大藏卿之ヲ選擢シ而テ國王ノ之ヲ命
スル者トス而テ其諸雇人等ハ銀行奉行ノ之ヲ
免命スヘキ者ナリ

第二十三條

其命ヲ受テ未タ事務ヲ執サル前ニ主長ハ拾五
枚幹事及監督ハ各四枚ノ佛朗西銀行ノ証券
ヲ所持セル其証ヲ立ヘシ而テ在務中之ヲ人ニ賣

此事ヲ得ズ如シ主長タル者死去或ハ病氣等ノ
故障アルキハ支店ノ會議員ハ其負中ノ一人ヲ
以テ假ニ其事務ヲ行ハシムヘシ而テ其主長ノ全
ク欠負ニナリタルキハ佛朗西銀行ヨリ其後任
ノ者ヲ命スヘシ

第五章 銀行支店ノ職務ノ事

第二十四條

主長ハ銀行奉行ノ命令ヲ遵奉シ且大會議員ノ
決定セシ諸事ヲ執リ行フヘシ而テ主長ハ其支
店ノ信書及其他ノ書類ニ華押ヲ画シ又其支店

人會議員及管事ノ首長トナルヘシ又支店ニ関
スル訴訟ハ銀行奉行ノ指令ニ依リ銀行幹事ノ
名ヲ以テ主長ノ取扱フヘキ者トス

第二十五條

主長及其付屬者ノ名ヲ記載セル諸証卷ノ其利
子ヲ預折シテ買ノ事ヲ支店ニ要ムルヲ得ス

第二十六條

支店ノ會議員ハ其主長及幹事監督ホヨリ成ル
者トス而テ會議員ハ支店ノ諸事ヲ監察シ及其
諸規則ヲ定ムルト雖モ然モ銀行ノ大會議員ハ

之ヲ改正スルノ權アルヘシ又會議員ハ利子ヲ預折
シテ諸證書ヲ買ヘキ其金額及諸費用ノ年分
ノ金數ヲ議定シ又佛朗西銀行ノ規則ニ從ヒ且
其可許ヲ受ナル事ヲ為サル様其監察ヲ為スヘ
シ

第二十七條

利子預折ノ事ヲ管スル分課員ナル幹事ノ申
付或ハ主長ノ可許ヲ取スシテ其利子ヲ預折シ
テ其證書ヲ預ル事ヲ得ス

第二十八條

支店ノ會議復ハ每一月ニ少ク兩度ノ集會ヲ
為ヘシ而テ諸事ノ計美及諸事ヲ取扱フ其順
序ハ總テ會議員ノ指令ニ從フヘシ而テ其會議ハ
必ス其決言ノ過半数ヲ以テ決定スヘキ者トス

第二十九條

支店ノ會議ハ監督一人以上及會議員三ノ二以
上ノ出席アルニ非サレハ事ノ決定ヲ為スヲ得ス

第三十條

支店ノ議決書ハ必ス佛朗西銀行奉行ノ華押ア
ルニ非サレハ現ニ其事ヲ行フヲ得ス

第三十一條

支店ノ監督ハ少クモ毎月一度其本月内ニ會
議シタル事柄ヲ佛朗西銀行ニ申告ス可シ

第三十二條

支店ノ幹事ハ其組合ヲ立テ、之ヲ三課ニ分ツ則
利子預折ノ一ヲ管スル組合計美及帳簿ノ事
ヲ管スル組合貨幣ヲ出納スル一ヲ管スル組合
ナリ

第六章 銀行支店ノ總規

第三十三條

各支店ニ於テ互ニ為サントスル事アルハ必
ス佛朗西銀行ノ大會議員ノ許可ヲ得ルニ非サ
レハ之ヲ為ス事ヲ得ス

第三十四條

此布告各種ノ條規ハ現今所在ノ各支店ニ於テ
モ亦之ヲ遵用スルヘシ

第三十五條

千八百八十年五月十八日ノ布告第九條第四十二
條第四十三條ノ外ハ盡ク之ヲ廢止スヘシ

千八百四十七年六月十日ノ定規

第一條

佛朗西銀行及其支店且各州ノ銀行ニ於テモ二
百「フランク」以下ノ紙幣ヲ發行ス可カラス

千八百
年四月十四日ノ
定規第四條見合

千八百四十八年三月十六日佛朗西銀行ノ

事ニ付テノ布告

第一條

此布告ノ日ヨリ以後佛朗西銀行ヨリ發行スル
紙幣ハ官府及人民ニ於テ疑念ナク貨幣一様ノ
取扱ヲ為ス可シ

高法第百四十三條及千八百八
年三月廿五日ノ布告第一條見

合

第二條

後未其布告ヲ為スニ至ル迄ハ佛朗西銀行ヨリ
発行スル紙幣ハ貨幣同様ノ者ナルニ於テ現金
ノ引替ヲ為ニ及ハス

第三條

佛朗西銀行及其支店ヨリ発行スル紙幣ノ高ハ
決テ三億五千萬フランクニ過越ス可カラスハ
百四十八年三月廿五日ノ布告才三條及千八百
四十八年四月廿七日ノ布告才六條且千八百四
十八年五月廿二日ノ
布告才二十條見合

第四條

國內通用ノ便ヲ助クル為メニ以後佛朗西銀行
ヨリ発行スル紙幣ハ百フランク以上ノ者タル
可シ千八百三十三年三月十四日ノ定規才四條及千
八百四十七年六月十日ノ定規且千八百四
十八年三月廿五日
ノ布告才四條見合

第五條

第一條ヨリ第四條ニ至ル迄ノ定規ハ其支店ニ
モ亦之ヲ適用ス可シ

第六條

佛朗西銀行ハ必ス每一週ニ官ノ新聞紙等ヲ以

テ其景況ヲ公告スヘシ

千八百四十八年三月廿七日各州銀行ノ紙幣ノ事ニ付テノ布告

第一條

此布告ノ日ヨリ以後「リヨン」「ルアン」「ポルドー」「ント」「リール」「マルセイユ」「ルハーブル」「ワルーズ」「ルレアン」等各銀行ノ紙幣ハ各州ノ官署及人民ニ於テ貨幣一様ノ取扱ヲ為スコシ
高法才百四十八年三月十五日ノ布告才一條見合

第二條

第一條ニ記載シタル各銀行ハ現金ヲ以テ其紙幣ノ引替ヲ為スニ及ハサルヘシ
三月十八日ノ布告才二條見合

第三條

第一條ニ記載シタル各銀行ノ其發行スヘキ紙幣ノ高ハ決テ左ノ定額ニ過越ス可カラズ則「リヨン」ノ銀行ニ於テ二千萬フランツ「ポルドー」ニ於テ二千二百萬フランツ「アント」ニ於テ六百萬フランツ「リール」五百萬フランツ「マルセイユ」二千萬フランツ「ルハーブル」六百萬フランツ

司法官

ルーツ五百萬フランツ¹ ヲルレアン² 三百萬フランツ³ ナリトス
千八百四十八年三月十五日ノ布告
及千八百四十八年四月廿七日ノ布告
第六條且千八百四十八年五月二日ノ布告
第二條見合

第四條

國內通用ノ便ヲ助クルカ為メニ各州ノ銀行ニ於テ百フランツ⁴ノ紙幣ヲ發行スルコトヲ許スト
虽元然氏其紙幣ヲ製造スルコトハ必ス千八百三
年四月十四日ノ定規第三十一條ニ從フヘシ
千八百三十七年四月十四日ノ定規第三十二條及千八百四十七年六月十日ノ定規第一條且千八百四十八年三月十六日ノ布告
第四條見合

第五條

各州ノ銀行ハ以後佛朗西銀行ノ支店ヨリ典ル
談州内ノ事ニ係タル証^下諸書ヲ受クルコトヲ得
ヘシ

第六條

各州ノ銀行ハ每週ニ兩度諸帳簿ノ略寫書ヲ大藏省ニ納ムル可シ

千八百四十八年三月廿七日佛朗西銀行ノ事ニ付テノ布告

第一條

佛朗西銀行及其支店ニ於テ証書ヲ預リテ前金
ヲ遣ルヘキ其証書ニ證人一人ヲ不足スル事、ア
ルハ他品物ノ証書ヲ添テ以テ其保承ヲ為サ
シメ而テ其前金ヲ遣ス事ヲ得可シ
千八百八十八年
一月十六日
ノ布告才十一條
和十二條見合

千八百四十八年五月一日佛朗西銀行ニ「ル
アン」及「リヨン」等ノ銀行ヲ併スル事ノ布告

第一條

「ルアン」「リヨン」「リール」「ツルーズ」「ラルレアン」「マル
セーユ」ノ諸銀行ヲ佛朗西銀行ニ合併スルヘシ

第二條

第一條ニ記載スル各州ノ銀行ハ佛朗西銀行
ニ合併シテ其支店トナリヌレハ千八百八十八年五
月十八日ノ布告及千八百四十一年三月廿五日
ノ布告ヲ以テ定メタル佛朗西銀行支店ノ規則
ニ從フヘシ而テ其幹事及利子預折ノ事而已ヲ
管スル會議員ノ人負ハ其日ニ依テ必スシモ之
ヲ変更スルヲ要セス且其主長監督幹事及會議
員等ノ必ス所持スヘキ該銀行証券ノ枚數モ亦
各銀行ニ於テ從來定マリシ規則ノ如クナルヘ

一千八百八十八年五月十八日ノ布告及一千八百八十八年五月二日ノ布告第一二条見合

第三條

各銀行ノ証券ハ以後之ヲ廢棄シ而テ其証券ヲ所持セル者ハ各其高ニ依テ款ニ佛朗西銀行ノ証券ト引替ヲ為スヘシ
一千八百四十八年五月二日ノ布告第一二条見合

第四條

前三條ノ事ヲ行フ為メニ佛朗西銀行ハ新ニ各一千フランクノ一萬七千二百枚ノ証券ヲ發スルヲ得可シ故ニ佛朗西銀行ノ元金ノ總高ハ即チ八千五百萬フランクニ及ブヘシ
一千八百四十八年六月三十

日ノ定規第二條及一千八百四十八年五月二日ノ布告第一二条見合

第五條

第四條ニ記載シタル新証券ヲ「ルアン」リヨン「ルハーブル」リール「トル」ズ「ラル」レアン「マル」セル州ノ各銀行ノ証券ヲ所持セル者ニ引替ヘ共フルヲ以テ爾後各銀行ニ現存スル所ノ準備金ハ之ヲ佛朗西銀行ノ準備金ニ合併ス可シ又動産靜産ヲ合併スルニ付テハ一般通常ノ記録稅ヲ拂フ可シ
一千八百四十八年五月二日ノ布告第一二条見合

第六條

本年三月十六日ノ布告ヲ以テ定メタル佛朗西
銀行ヨリ発行スヘキ紙幣ノ額ニ同月廿七日ノ
布告ヲ以テ定メタル州ノ各銀行ヨリ発行スヘ
キ紙幣ノ大数ヲ加フル事ヲ得可シ而テ此布告
ノ日ヨリ以後佛朗西銀行ニ合併シタル各銀行
ヨリ発行スル所ノ紙幣ハ官有及人民ニ於テ貨
幣同様ノ取扱ヲ為スコシ又此布告ノ日ヨリ以
後六ヶ月内ニ各銀行ノ旧紙幣ヲ所持スル者
ハ佛朗西銀行及其支店ニ於テ其紙幣ト交換ヲ
為スヘシ而テ如シ其期限ヲ過クル片ハ其紙幣ハ

通用ヲ為サスト虽モ然モ佛朗西銀行及其支
店ニ於テハ猶之ヲ交換スル可シ
千八百四十八年
五月四日ノ布告

第二條第
七條見合

第七條

大藏省ノ監督官ハ大藏卿ノ命ヲ以テ銀行支
店ノ帳簿ヲ調査スルノ權アルヘシ
千八百四十八年
五月四日ノ

布告第二
條見合

第八條

佛朗西銀行支店ノ名ヲ書記スル事ハ以後左
ノ如クニスヘシ

佛朗西銀行ノ某所ノ支店

千八百四十八年五月四日佛朗西銀行「
ント」
「ホルドール」ノ両銀行ヲ併スル事ノ布
告

第一條

佛朗西銀行ハ「サント」及「ホルドール」ノ銀行ト合
併スルヘシ

第二條

本年四月廿七日ノ布告各種ノ條規ハ佛朗西銀
行ニ合併セシ「サント」及「ホルドール」ノ銀行ニモ亦

之ヲ適用スヘシ

千八百四十九年十二月廿四日佛朗西銀行
ノ紙幣ノ事ニ付テノ定規

第一條

佛朗西銀行及其支店ヨリ發行スヘキ紙幣ノ數
ハ千八百四十八年三月十六日同廿七日同年五
月一日同五月四日ノ布告ヲ以テ四億五千二百
萬フランクニ定メタリト
茲氏以後五億二千
五萬百フランクニ増加スル事ヲ得可シ

千八百五十年七月三十日佛朗西銀行ノ事

ニ付テノ布告

第一條

佛朗西銀行ハ「レ」又ニ於テ新ニ其支店ヲ設
クヘシ而テ其取行フヘキ事柄ハ佛朗西銀行ト同
様ニシテ且千八百四十一年三月廿五日ノ布告
ニ從テ佛朗西銀行ノ大會議員ノ監察ヲ受
クヘシ
千八百四十一年三月廿五日ノ布告見合

千八百五十年八月十三日佛朗西銀行ノ紙
幣ノ事ニ付テノ定規

第一條

佛朗西銀行ノ大會議員ノ歎願ニ從テ千八百四
十八年三月十六日及其後ノ布告及定規ノ左ノ
三件ノ係ル事ハ自今之ヲ廢止スヘシ

第一 佛朗西銀行ノ紙幣ハ貨幣一樣ノ通用
ヲナス事

第二 佛朗西銀行ノ紙幣ハ貨幣ヲ以テ其
引換ヲ為サル事

第三 佛朗西銀行ヨリ發行スル紙幣ノ數
額ノ事

而テ佛朗西銀行及其支店ハ今ヨリ其以前ノ定

規ニ依ル可シ

千八百五十七年六月十日佛朗西銀行ノ免

許年限ヲ延ス事ニ付テノ定規

第一條

千八百六年三月廿二日ノ定規及千八百四十年

六月三十日ノ定規ヲ以テ佛朗西銀行ニ與ヘタ

ル免許年限ハ千八百六十七年十二月三十一日

ニ終ルヘキト雖氏再ヒ三十年ノ免許ヲ與ヘ千八

百九十七年十二月三十一日迄ニ延ス事ヲ得ヘシ

第二條

佛朗西銀行ノ元金ハ而今九千百二十五萬フラン

クナリト雖氏以後一億八千二百五十萬フラン

クニ増加スルヲ得可シ而テ準備金ハ全ク其外

タルヘシ

第三條

第二條ニ從テ款ニ發行スヘキ九萬千二百五十枚

ノ証券ハ未タ合併セサル前ニ各銀行ヨリ發

行セシ其証券ヲ所持セル者ニ而已賣リ渡スヘ

シ而テ其者ハ此定規布告ノ日ヨリ遅クトモ

一年間ニ每三ヶ月ニ其証券一枚ニ付千百フ

司法省

ランク^レノ割合ヲ以テ其價ヲ佛朗西銀行ニ納
ム可シ而テ其事ニ付テノ各種ノ規則ハ佛朗西
銀行ノ決議ニ從フ可シ

第四條

此新証券ヨリ生シタル金數ハ第二條ニ記載シ
タル一億八千二百五十萬フランク^レノ元金ヲ充
シタル為ニ用ユヘシ而テ其餘金ハ亦其準備金
ニ加フ可シ

第五條

第四條ニ記載シタル新証券ヨリ生シタル金ノ

其内一億フランク^レハ千八百五十九年中ニ大藏
省ニ納ム可シ而テ其時期ハ大藏卿ト共ニ之ヲ
定ム可シ且此金ハ大藏省會計ノ不足ヲ補フ為
メニ納ムル者故ニ大藏卿ハ三分ノ利子ヲ拂フ
ヘキ事ヲ公債証券ノ帳簿ニ記載ス可シ而テ
此三分ノ公債証券ハ佛朗西銀行ノ談金ヲ大藏
省ニ納メタル当日ヨリ前三十日間ノ証各ノ相場
ヲ平均シテ以テ其利足ヲ拂フヘキモノト雖モ然モ
亦七十五フランク^レヨリ極下ノ相場ヲ用ユ可カラズ
又大藏省ニ於テハ右一億フランク^レノ其百分ノ

一八公債消却ノ元金ニ加へ入ルヘシ

第六條

第五條ニ從ヒテ一億フランクノ其百分ノ一ヲ公債消却元金ニ加へ入レシニ付テハ大藏省ノ公債帳簿ニ記載スル公債ノ其金高ニ當ル丈ハ之ヲ塗抹消却スヘシ

第七條

佛朗西銀行ハ諸公債証書及國內ノ錢路會社ノ資本証券且巴里布民ノ諸証書ト同様ニ他國ノ靜産ヲ質ニシテ金ヲ借ス社中ノ証書ニモ亦前

金ヲ遣ル事ヲ得ヘシ

第八條

佛朗西銀行ハ証書ヲ買テ其利子ヲ預折シ及証書ヲ預リテ前金ヲ遣ル片ノ其利子ハ時宜ニヨリ每百ニ六分以上ヲ取ル事ヲ得可シ而テ六分以上ノ其利子ハ証券所持主ニ配分スルニ及ハスレテ之ヲ銀行ノ諸備金ニ加ル可シ

第九條

以後佛朗西銀行ヨリ發行スル紙幣ハ其價五十フランク以上ノモノタル可シ

第十條

此定規布告ノ日ヨリ十年ノ後政府ハ仙朗西銀行
ニ向テ其支店ノアラサル州ニ支店ヲ開設スヘキ
事ヲ命スルノ權有ルヘシ

第十一條

政府ト銀行トノ間ニ流レル 銀引鏡計美ノ
トニ付テ政府ヨリ銀行ヘ拂フ可キ利子ハ銀行
ノ諸証書ヲ買フテ利子ヲ預折スル其利子ノ割
合ニ準シテ拂フヘキ者ト虽凡然レモ亦每一百ニ
三分以上ニ越エ可カラス

第十二條

証券所持主ノ新証券ヲ買ヒシ其價ヲ拂フ能ハ
ス成ハ拂フヲ急リ及其他ニ付テノ必要ナル
方法ハ別段ノ規則書ヲ以テ之ヲ定ムルヘシ

第
一
章
第
一
節
第
一
條
第
二
條
第
三
條
第
四
條
第
五
條
第
六
條
第
七
條
第
八
條
第
九
條
第
十
條
第
十
一
條
第
十
二
條
第
十
三
條
第
十
四
條
第
十
五
條
第
十
六
條
第
十
七
條
第
十
八
條
第
十
九
條
第
二
十
條
第
二
十
一
條
第
二
十
二
條
第
二
十
三
條
第
二
十
四
條
第
二
十
五
條
第
二
十
六
條
第
二
十
七
條
第
二
十
八
條
第
二
十
九
條
第
三
十
條
第
三
十
一
條
第
三
十
二
條
第
三
十
三
條
第
三
十
四
條
第
三
十
五
條
第
三
十
六
條
第
三
十
七
條
第
三
十
八
條
第
三
十
九
條
第
四
十
條
第
四
十
一
條
第
四
十
二
條
第
四
十
三
條
第
四
十
四
條
第
四
十
五
條
第
四
十
六
條
第
四
十
七
條
第
四
十
八
條
第
四
十
九
條
第
五
十
條
第
五
十
一
條
第
五
十
二
條
第
五
十
三
條
第
五
十
四
條
第
五
十
五
條
第
五
十
六
條
第
五
十
七
條
第
五
十
八
條
第
五
十
九
條
第
六
十
條
第
六
十
一
條
第
六
十
二
條
第
六
十
三
條
第
六
十
四
條
第
六
十
五
條
第
六
十
六
條
第
六
十
七
條
第
六
十
八
條
第
六
十
九
條
第
七
十
條
第
七
十
一
條
第
七
十
二
條
第
七
十
三
條
第
七
十
四
條
第
七
十
五
條
第
七
十
六
條
第
七
十
七
條
第
七
十
八
條
第
七
十
九
條
第
八
十
條
第
八
十
一
條
第
八
十
二
條
第
八
十
三
條
第
八
十
四
條
第
八
十
五
條
第
八
十
六
條
第
八
十
七
條
第
八
十
八
條
第
八
十
九
條
第
九
十
條
第
九
十
一
條
第
九
十
二
條
第
九
十
三
條
第
九
十
四
條
第
九
十
五
條
第
九
十
六
條
第
九
十
七
條
第
九
十
八
條
第
九
十
九
條
第
一
百
條
第
一
百
一
條
第
一
百
二
條
第
一
百
三
條
第
一
百
四
條
第
一
百
五
條
第
一
百
六
條
第
一
百
七
條
第
一
百
八
條
第
一
百
九
條
第
二
百
條
第
二
百
一
條
第
二
百
二
條
第
二
百
三
條
第
二
百
四
條
第
二
百
五
條
第
二
百
六
條
第
二
百
七
條
第
二
百
八
條
第
二
百
九
條
第
三
百
條
第
三
百
一
條
第
三
百
二
條
第
三
百
三
條
第
三
百
四
條
第
三
百
五
條
第
三
百
六
條
第
三
百
七
條
第
三
百
八
條
第
三
百
九
條
第
四
百
條
第
四
百
一
條
第
四
百
二
條
第
四
百
三
條
第
四
百
四
條
第
四
百
五
條
第
四
百
六
條
第
四
百
七
條
第
四
百
八
條
第
四
百
九
條
第
五
百
條
第
五
百
一
條
第
五
百
二
條
第
五
百
三
條
第
五
百
四
條
第
五
百
五
條
第
五
百
六
條
第
五
百
七
條
第
五
百
八
條
第
五
百
九
條
第
六
百
條
第
六
百
一
條
第
六
百
二
條
第
六
百
三
條
第
六
百
四
條
第
六
百
五
條
第
六
百
六
條
第
六
百
七
條
第
六
百
八
條
第
六
百
九
條
第
七
百
條
第
七
百
一
條
第
七
百
二
條
第
七
百
三
條
第
七
百
四
條
第
七
百
五
條
第
七
百
六
條
第
七
百
七
條
第
七
百
八
條
第
七
百
九
條
第
八
百
條
第
八
百
一
條
第
八
百
二
條
第
八
百
三
條
第
八
百
四
條
第
八
百
五
條
第
八
百
六
條
第
八
百
七
條
第
八
百
八
條
第
八
百
九
條
第
九
百
條
第
九
百
一
條
第
九
百
二
條
第
九
百
三
條
第
九
百
四
條
第
九
百
五
條
第
九
百
六
條
第
九
百
七
條
第
九
百
八
條
第
九
百
九
條
第
一
千
條

コ
ー
ト
ナ
ボ
レ
キ
ン
附
録
ノ
テ
ー
ル
規
則
譯
文

デ子ーデルラントウツトブケン 富島永譽

筆記

米人ベルベツキ氏讀校

光増重健

第一章

証書主記

ノテールノ職務及ヒ其職務ヲ行フヘ

キ境界

第一條

国法ノ許ス所又各民ノ望ム所ノ其事ノ正シキ
モノハ皆「ノテール」ノ役所ニテ其証書ヲ作ルベ
シ而テ之レヲ預リタル「ノテール」ハ何時ニテモ
其証書ノ寫シ又抄書ヲ人ニ渡スヲ以テ則チ其

ハ職掌トス然レ共既ニ国法ニ於テ彼ノ証書類
ハ彼ノ彼所ニテ取扱フベキト定メタルモノ
ハ此ノノテールノ關係スベキモノニ非ルナリ
ベルベツキ氏云死生婚姻等ノ証書ハノメールニテ
不動産ノ証書類ハノビローテヒボテールクニテ取
扱フ類
ナリ

第貳條

ノノテールハ畢生間國王ヨリ命ゼラル、者トス
同氏云其實ハ國王ノ命ヲ承
テ該省ノ卿ヨリ命スルナリ

第三條

ノノテールハノアルロ^郡ン^一ケスマン^一シ^一州^一タル^一名^一内ノ

証書ノ事ヲ掌ルトス而テ此人規則ヲ國中ニ施
行スル以前ニ各ノアルロ^郡ン^一ケスマン^一ニ配置スベ
キノノテールノ員數ヲ定ムヘシ而テ其割合ハ四
千ノ人口ニ付多ク^一ノテール^一ニ臺人ヲ置キ其額
ヲ越ベカラス

第四條

ノノテールハ其職ヲ命ゼラル、時ニノアルロ^郡ン^一ケ
スマン^一ニ於テ其住居スベキノ場所ヲモ并セ命
ゼラル、モノナリ然レ^一ノテール^一ノ歎願ニ依
リテハ國王ノ免許ヲ得テ其場所ヲ替スル事ヲ

得べし

第五條

ノテールレハ命ヲ受ケシ場所へ住居シ役所ヲ役
ケ特ニ証書ヲ預リ保ツノミナラス暫クモ其場
所ヲ離ル、事ヲ得ス若シ此ニ違フ時ハ三ヶ月
以上六ヶ月以下其官ヲ停止セラルベシ如シ十
四日以上ノ他出ヲ欲セハコアルロンダスマンノ
裁判所長官ノ免許ヲ取リ一ヶ月以上ニ至リテ
ハ州ノ裁判所長官ノ免許ヲ取ルベシ若シ此レ
ニ違フ時ハ百フラン以上或百フラン以下

ノ罰金ヲ命ゼラルベシ如シ違規再三ニ及べば

三ヶ月以上六ヶ月以下其官ヲ停止セラルベシ

又他出ノ免許ヲ得ル時ハ州ノ裁判所ノ長官

ヨリ其ノ附近ノノテールレヲ以テ其レノ名代人

ニ命スル者ナリ

同氏云一ヶ月以内ノ暇ニモ各
代人ヲ命スルヤ否ハ原文ニ不
詳思フニ本条ハ或ハ一ヶ月以上ノ
事而已ニ關係スルナランカ

第六條

ノテールレハ各民ノ依頼ヲ為ス時故ナクシテ決
テ是レヲ拒ムベカラズ且ツコアルロンダスマン
ノ裁判官ノ命ニ從テ貧窮人ノ事ハ謝金ナレニ

司法官

取扱フベシ

第七條

「ノテールレハ其ノ住居セル「アルロンデスマン」ノ外其職務ヲ行フ「ヲ得ズ如シ此ノ規ニ違フアレハ三ヶ月以上六ヶ月以下其官ヲ停止セラレ加之ナラズ如シ他人ニ損害ヲ為ス「アルレハ亦之レカ償ヲナスベシ

第八條

「ノテールレハ他人ノ職務ヲ兼任スルヲ得ズ然レモ國王ノ命ニ依リハ其居住セル市邑ノ此ノ公務

ヲ兼任スル事ヲ得

第九條

「ノテールレ如シ他ノ官ヲ命ゼラレ其命ヲ奉ル時ハ其「ノテールレノ職掌ハ自然ニ消尽シ而テ其ノ後任ハ國王ヨリ命スルモノナリ故ニ他官吏ノ「ノテールレタルベキノ命ヲ受タル者モ亦之レニ准ス

第二章

「ノテールレト為ルベキ人物ニ必要ナル事及「ノテールレニ任スルニ付

テノ法

司法官

第十條

ノテールトナルベキ人ハ

第一 満貳拾五歳以上ノ者

第二 徴兵規則ノ調査ヲ済マシタル者

第三 過シ六年ノ間正実ナリシ者ト云 証書

ヲ出スヘシ其証書ハ証人四名自ラ其

姓名ヲ記載シ而テ戸長ノ手ヲ歴テ差

出スヘシ

第四 下ニ云フ所ノ試験ヲ済マシタル者

国王ノ特命ニ依テハ或ハ年歳ノ定メニ関セリ

ル事アリト岳氏然レ氏必ス満貳十三歳以下ノ

者ヲ命スヘカラス

第十二條

試験ノ法ハ「ノテールタル」ヲ願フ其人ノ一ケ年

間住居セシ州ノ裁判所二人ノ官吏其長官一

人ト共ニ試験ヲ為スナリ而テ此ノ二人ノ官吏

ハ二年間試験ノ事ヲ執リ行フベキノ委任ヲ受

ケシ者ニテ如シ其ノ年限ヲ終ル時或ハ再ヒ二

年ノ勤続キヲ為スヲ得ベシ又其期限内一人死

スル者アレハ裁判所長官ヨリ其ノ代人ヲ命ズ

ルモノナリ

第十二條

試檢掛三人ノ官吏ハ一年兩度五月集會ヲナス
べし而シテ其試檢ヲ為スノ場所及ヒ其時限ハ
遲氏集會ノ一ヶ月以前ニ新聞紙ヲ以テ公告シ
且ツ裁判所ノ門前ニモ之レヲ揭示スヘシ
此新聞紙ハ政

府ニテ刊行
ノモノヲ云

第十三條

試檢ヲ願フ人ハ滿廿三歳ト定ム而シテ其人ハ
試檢ノアルベキ日ヨリ十四日以前ニ願書ヲ差

出シ且出產及ヒ該人品行ノ証書ヲモ之レニ添
エ入ベシ而テ是等ヲ各人ニ於テハ官吏必ス試
檢ヲ為サ、ルヲ得ス如シ其内ニ大學校ノ法学
博士ノ等位ヲ得シモノアルハ其博士トナリシ
時ノ証書ヲ出スベシ

第十四條

三人ノ官吏ハ問題ヲ設ル為メニ二人ノ一ノテ
ルレヲ會シテ題目ヲ取極ルトス而テ其ノ願人
ハ一人ニ付四十フランクノ金ヲ納ムヘシ

第十五條

法学博士ノ等位ヲ得シ人ヲ試験スルニハ一時
間ヨリ短カ、ルベカラス而シテ重モニ其ノ現
業ノ試験ヲナスベシ又通常人ノ試験ハ是レヲ
二時間トシ一時間ハ其ノ法学ヲ試シ一時間ハ其ノ現業ヲ試ムトナリ
而テ必ス一人別ニ其試験ヲナスベシ

第十六條

該三人ノ官吏ハ願人ノ内ニ於テ「ノテール」トナ
ルニ必用ノ學問ヲ十分成シ得タル者ト見極メ
ル人アル時ハ乃チ證書ヲ與フベシ而テ此ノ証
書ヲ所持スル者ハ何レモ州ニ於テモ「ノテール」

ノ役ヲ願フ「ノテール」得ベシ

第十七條

出產ノ證書并徵兵調濟ノ證書及ヒ該人品行ノ
證書且試験済ノ證書此ノ四ツハ「ノテール」ノ役
義ヲ願フ時願書ニ添テ必差出スベキモノナリ

第十八條

「ノテール」トナリシ人ハ其命ヲ受ケシ日ヨリ二
ヶ月間ニ州ノ裁判所ニ於テ下ニ云フ所ノ誓書
ヲ差出スベシ其人住所ノ裁判所ナリ而テ其條件ハ左ノ如
シ

一 國王ニ忠信ヲ尽ス事

一 國法ヲ遵守スルコト

一 裁判所ノ長官ヲ奉敬スルコト

一 談官ヲ実直ニ勤励シ偏頗ヲ為ササルコト

一 口ノテールル規則ヲ遵守シテ其ノ預ル所ノ証

書類ヲ秘密ニ保守スルコト

一 談官ヲ求ル為ニ人ニ金ヲ贈リ又ハ贈ラシ

ト約シタルコトナキト云フコト

本人ノ疾病等事實無己ノ故ヲ以テ誓書ヲ差出
スベキノ延期ヲ願フ者アレハ國王ハ是レヲ許

ルスノ權アリトス又定期内ニ誓書ヲ出スコトヲ

急ルヤレハ其者ノ官ハ自ラ消シ失セ更ニ他人

ヲ撰挙スルナリ

第十九條

未タ誓書ヲ出タサル以前ハ口ノテールノ職務

ヲ執行フヲ得ズ如シコレニ違ハハ刑法百九十

條ニ記スル罰金ノ命ヲ受ケ刑法百九十六條誓
ヲ行フ者ハ十ニ命スヘシ

付他人ニ損害アレバ又之レヲ償ハザルヲ得ズ

第二十條

誓書ヲ出シタル日ヨリ十四日間ニ其州ノ裁判
所ノ書記局ニ自分ノ筆押ヲ納ムヘシ如シコレ
ヲ怠レハ其ノ怠ル日毎ニセフランツノ罰金ヲ
命セラレズ

第三章 証書及ヒ証書ノ文章又証書ノ寫

第廿一條

「ノテールハ自分並妻又ハ血屬及支親血脈ノ者ハ永世支
族ハ三世マテノ者ノ關係セル其証書ヲ預ル「ヲ得ズ
然レ氏妻及ヒ親屬タル者物ヲ買ヒ或ハ物ヲ借
リ又ハ物ヲ貸ス人ト為リ又ハ請合人トナリテ

証書ニ其ノ名ヲ書載セタルモノハ之レヲ取上ケ
テ若シカラス如シ此等ノ規ニ違テ他人ニ損害
ヲ為ス時ハ亦コレヲ償ハサル可カラス

第廿二條

「ノテールハ其請取ル所ノ証書ニ付自分並妻
及ヒ証書ニ記名ノ証人且其ノ妻或ハ又自分且証
人ノ血屬及ヒ支親ノ為メニ利益トナルベキ様
ノ取計ヲナスベカラス如シ証書中此レニ違フ
「ノ記載シアレハ其違規ノ原丈ケヲ取除キテ
全証書ヲ廢スルニハ及ザルナリ

第廿三條

証人ノ員數ニ付テ規則ノ別段ノ定メナキ事ハ
總テ證人二人ノ面前ニ於テ証書ヲ認ムベシ
モ亦証書ニ調印スルナリ而テ「ノテール」ノ能ク識面ノ者ニ
非ザレバ其証人トナルコトヲ得ズ故ニ如シ「ノテ
ール」ノ識ラサル者証人ニ出ル時ハ又其証人ヲ
請合フベキ人「ノテール」ノ識ヲ出シ其名ヲ証書
ニ記載スベシ而テ其証人ハ男子廿一歳以上孰
レモ其土地ノ者ニシテ自ラ名ヲ記シ且証書ノ
言辭ヲ了解スルニ足ル者ヲ用フベシ

第二十四條

「ノテール」ハ自身ヨリ三等迄ノ血屬又証書ヲ
頼ム人ノ三等迄ノ血屬且「ノテール」ノ小使等ノ
下人ハ其証書ノ証人ノ為ルヲ得ズ然レモ此事
ニ付民法ニ於テ別ニ規則アルモノハ格別ナリ
トス如シ此規ニ違フ時ハ其証書ハ世間通常ノ
書付美ノ權力而已アル者トス而テ此事ニ就テ
如シ他人ニ損害アル時ハ「ノテール」其損害ヲ償
フベシ然レモ証書ヲ頼ム人如シ物ヲ買フ人借ル
人又物ヲ請合フ人ナルニ於テハ其ノ親屬ノ者

ヨリ証人ト成ル事ヲ得可シ

第二十五條

証書ヲ頼ム人ハ「ノテール」ノ平日相識レル人ナルヲ要ス如シ「ノテール」ノ識ラサル人ナラハ二人ノ証人アリテ其人ノ請合人ト为ル事ヲ要ス

第二十六條

証テノ證書ニ必ス記載ス可キ事ハ「ノテール」ノ姓名及ヒ其役所ノ場所且証各ヲ頼シ人ノ姓名職業及ヒ其住所或ハ名代人ナルニ於テハ其本人ノ委任状ヲ持テル事又其本人ノ姓名職業及

ニ住所ト其証人ノ姓名職業住所且其証各ヲ認メシ場所ト其年月日ヲリトス「ノテール」如シ此規ニ違フ時ハ各事ノ一件毎ニ二十フランクノ罰金ヲ命ズルナリ如シ証書ヲ記セシ場所及ヒ年月日ヲ記載セサル時ハ其ノ証書ハ世間通常ノ書付類ノ権力而已アルモノトスルナリ

第二十七條

「ノテール」ハ其ノ免許狀ニ付テノ規則ニ依テ自分ノ住所ヨリ人口繁盛ニシテ上等ノ位アル場所ノ事務ヲ行フ時ニハ其ノ上等ノ位アル場所

ノ事務ヲ行フニ適當ナル免許狀ヲ所持セル事
ヲ証書ノ上端ニ記載スベシ如シ此規ニ違フ時
ハ其ノ上等ノ場所ノ免許税ノ一ヶ年ノ高ヲ拂
フタル外ニ其ノ規ニ違フ毎ニ五十フランク以上
八百フランク以下ノ罰金ヲ命ゼラルベシ

第二十八條

「ノテール」ノ記スル証書ハ人ノ讀易キ様明カニ
書スベシ又字行ノ間ノ明カザル様ニシテ且語
ヲ略用スベカラズ如シ字行ノ間空白ヲ存セザ
ルヲ得ザル時ハ其間ハ線ヲ引ベシ物ノ多寡廣

狭及ヒ年月日ヲ書スルニ其數ハ必ス言葉ヲ以
テシテ數字ヲ用ベカラズ而テ其見易カラシム
ルニ言葉ノ文字ノ上下間ニ其數字ヲ書キ添ヘ
置ベシ「ノテール」如シ此規ニ違フアレハ各事ノ
一件毎ニ二十フランクノ罰金ヲ命ゼラルベシ

第二十九條

証書ハ各人ノ望ム所ノ國語ニテ記スベシ而テ
「ノテール」ハ其國語ヲ能ク了解シ得ザルベカラ
ズ

第三十條

「ノテール」ハ証書ヲ書キ了リシ後チ声ヲ揚ケテ
其本人へ説キ聞カスベシ而テ直ニ本人証人及ヒ
「ノテール」其他関係ノ各人親ウ其ノ筆押ヲ画
スベシ而テ「ノテール」ハ其証書ヲ讀ミ聞カセシ
事ヲ其証書ノ端ニ記スベシ如シ本人ト証人ト
ニ親ウ其名ヲ記スル能ハサル者ト執筆ニ故障
疾病アル者アル時ハ乃チ其由ヲ記載スベシ又
長文ノ証書ノ其中壹貳條件而已ニ関係シテ証
人トナル者アレバ「ノテール」ハ其関係セル丈ケ
ノ條件ヲ其者ニ讀ミ聞カセテ直ニ筆押ヲ画セ

シム入レ而テ又此人者ハ其壹貳ノ條件而已ノ
証人ナル事ヲ記載スベシ如シ此規ニ違フ時ハ
其証書ハ世間通常ノ書付类ノ権力而已アルモ
ノトス如シ証書ヲ其本人ニ説キ聞カセ且ツ証
書ニ関係セル各人ノ筆押ヲ画セシ事ヲ記載セ
ザル時ハ貳十「フラン」ノ罰金ヲ命ゼラルベシ

第三十一條

遺物ノ目錄ヲ証書ニ記載スル時又諸ノ事件且
ツ諸ノ口供ノ証書ヲ記スル時其ニ関係シタル
一二人如シ其ノ名ヲ記スル事ヲ嫌フ時或ハ未

タ其証書ヲ記シ終ラサル中ニ退キ去リシ者アラハ「ノテール」ハ其ノ事由ヲ記載シ置テ其証各ハ用ヲナス者トス且ツ其ノ名ヲ記スル事ヲ嫌フ人其嫌フ譯ヲ申述スルニ於テハ又其譯ヲ記載スベシ

第三十二條

名代人ニ權ヲ與フル所ノ委任状ハ「ノテール」其認メシ証書ノ本書ト共ニ綴リ置クベシ如シ其委任状本人ノ自宅又ハ外國ニ於テ認メシモノナルニ於テハ「ノテール」及ヒ其レニ關係スル人

ハ名代人ノ該事ヲ執ル行フ以前ニ承知シタルヲ要用ノ事トス而テ其委任状ヲ承知シタル上ハ「ノテール」及ヒ其レニ關係アル人ハ皆其証書ニ名ヲ記シテ其筆押ヲ画スベシ如シ親カラ其名ヲ記スル能ハザル者不文ナト又記スルニ故障アル者疾病アルハ其故ヲ証書ノ端ニ記載スベシ如シ証各ヲ頼ム人ニ口授ノ委任ヲ受ケシ名代人アル時ハ亦其事ヲ記載スベシ「ノテール」如シ此規ニ違フアルハ二十フランクノ罰金ヲ命ゼラルベシ

第三十三條

前條ニ云フ所ノ委任狀ヲ証書ノ本書ト共ニ綴
リ置カズシテ可ナルモノニ件アリ

其一 初メ某ノ「ノテール」ニ依テ委任狀ヲ認

メ後日其委任狀ヲ持シテ又其ノ「ノ

テール」ニ証書ヲ頼ム人アル時ハ其

「ノテール」ニ於テハ別段ニ委任狀ヲ証

書ノ本書ト共ニ綴リ置クニ及ハサル

事ニ依テハナリ

其二 「ノテール」ハ名代人ノ委任狀ヲ其証書

ニ一度已ニ綴リタル事アレハ再ヒ其

人ノ証書ヲ認ル時ニハ其委任狀ヲ綴

付スルニ及バザルナリ而テ其故ヲ証

書ノ下端ニ記スベシ如シ其事ヲ記

セザル時ハ二十フランクノ罰金ヲ

命ゼラルベシ

第三十四條

總テ証書ノ書キ直シ及ヒ書キ加ヘハ左右紙端

ノ空白アル所ニ記載スベシ然レモ其書入レラ

ズシキモノト為スニハ本人及ヒ証人且ツ「ノテ

ルル各自其姓名華押ヲ画スベシ如シ其書キ直
シ且ツ書キ加ヘノ文字左右紙端ノ空白ノ所ニ
書キ尽シ難キ程ノ長文ナルニ於テハ証書本文
ノ終リト各人ノ姓名華押ヲ画セシ所トノ其中
間空白ノ所ニ記載スルモ亦可ナリトス而テ其
書キ直シ及ヒ書キ加ヘハ本文或行ノ何條ノ昏
キ直シ或書キ加ヘナル事ヲ記載シ置クベシ

第三十五條

証書ノ本文及ヒ書キ直シ或書キ加ヘノ文字ヲ
塗抹シテ傍書スル事ヲ得ズ縱令之レヲ為ス氏

其事ハ用ヲ為サザルモノナリ

第三十六條

本文ノ文字如シ塗抹セザルヲ得ザル時ハ其原
文ハ再ヒ讀ミ得ベキ様ニシテ且其塗抹セシ字
數ヲ証書ノ左右紙端空白ノ所ニ記シテ其証書
ニ關係セル各人其姓名華押ヲ画スベシ書キ直
シ及ヒ書キ加ヘノ文字ヲ塗抹スルアレハ其書キ
直シ書キ加ヘノ下端ニ於テ亦右ノ如クスベシ
或ハ証書ノ都合ニ依リテハ其証書中ノ塗抹
セシ文字ハ本文且ツ書キ直シ書キ加ヘニ不拘

レテ幾行ノ何條ノ幾語字ヲ塗抹セシト云フ事
ヲ証書本文ノ終リ各人ノ姓名華押ヲ画セシ所
ノ前ノ空白アル所ニ記スルヲ得ベシ如シ此規
ニ違フアレハ償金ノ外 其カ为メ自然他人ニ損
害アル時ノ償云下
之レニ 劾 各事ノ一件毎ニ貳十フランクノ罰金ヲ
命ゼラルベシ如シ文字ヲ塗抹スルニ付テ不正
ノ所为アレバ或ハ其官ヲ免ゼラルベシ

第三十七條

ハテールレハ貨幣尺度量衡ノ事ニ付テハ自國ノ
法ニ於テ定メシ所ノ名稱ヲ用テ其事ヲ証書ニ

書キ顯ハスベシ如シ此規ニ違フアレバ償金ノ
外各事ノ一件毎ニ二十フランクノ罰金ヲ命ゼ
ラルベシ家屋ノ有無ニ拘ハラス土地ニ付テ地方
役所へ届クベキ証書ヲ記スルニハ官府規定
ノ文字ヲ 其大正集小正幾番
地ト云フカ如キナリ 用テ其場所ヲ指定
スベシ其他國法又ハ各人ノ望ニ依テハ猶此上
幾層モ詳密ニ記載スベシ而テ以上ノ規則ハ関
セサル事ハ各人ノ遺言狀ト地方役所ノ記録ニ
未ダ番号ヲ記載セサル 同氏云フ此ノコトテ
則規ヲ施行セシ當時未タ
土地ノ區分地所ノ番号モ確定セサル州邑ア
リシ故ニ斯クハ言シモノナリ

地所ヲ証書ニ記スルト遺物ノ目錄ニ古物又ハ
外国ノ貨幣ヲ記スルト又外国政府ノ負債ノ証
書外國交易ノ事ニ付テノ証書外國ノ不動産
ノ證書等ヲ此ノコトノテールノ証書ニ記スル時ト又
古昔ノ書キ物ヲ証書ニ記スル等ノ時ナリトス

第三十八條

コトノテールハ諸証書ノ本書ヲ其役所ニ保持スベ
シ如シ否セハ各人ノ所持セル証書ハ真正ノ物
ト為テ得ズ故ニ如シ此ノ事ニ付テ人ニ損害ア
ル時ハコトノテール之レヲ償フベシ而テ此規ニ依

ラスレテ可ナルモノハ婚姻ノ許シノ証書
某ハ某地ノ某人ナルヲ知ルノ証書 某ノ品ハ
某人ノ所持物タルヲ知ルノ証書 人ノ生存
シアルヲ知ルノ証書 金數六百フランク以下
ノ請取ノ証書 貸シ借リノ貸金役人ノ養老料
及ヒ諸ノ給金且利子ノ請取ノ証書 人ノ依托
ヲ拒ムノ証書 拂方ノ金高ヲ拒ムノ証書 其
他輕易鎖末ノ証書類ナリトス而テ以上ノモノ
ニ付テハ各人ノ望ニ從テ同シ証書ヲ數枚遣シ
テモ妨ナレトス然レモ各一枚毎ニ其遣シタル

總枚數ヲ記載シ置クヘシ如シ否セハ「ノテール」
ハニテ「フランク」ノ罰金ヲ命ゼラルベシ

第三十九條

「ノテール」ハ遺言狀ヲ預ケ置タル人ノ死セシ事
又ハ其失踪セシ事ヲ承知シタル日ヨリ十四日
ノ間ニ其遺言狀ニ關係スル各人ヘ其役所ニ遺
言狀ノ預ケアル事ヲ報告スヘシ而テ此規則ハ
遺言狀ヲ廢スル時ノ証書ニモ亦用ユヘキモノ
トス又夫婦ノ内如シ一人ノ死去スル時該品ヲ
讓ルヘキ事ヲ定メ置ク時ノ証書ニモ亦用ユヘ

キモノトス

第四十條

第五條ノ終リ及ヒ第五十三條第五十六條ニ定
メタルノ外ハ証書ノ本書ヲ保持セル「ノテール」
而已ニ限リ其本書ノ寫シ又其鈔書ヲ人ニ遺ス
ヘキノ權アリトス且各「ノテール」ハ其役所ニ於
テ認メタル証書ハ何事ニ限ラス本書ノ寫シ又
其抄書ヲ人ニ遺スヘキノ權アリトス又証書ノ
寫シ且ツ抄書ヲ求ニ為メニ他ノ「ノテール」ノ認
メシ証書ヲ持テ頼ヲ為ス者アラハ其証各ノ寫

シテ為シテ其原証書ト能ク校合シテ其寫シ又
 其鈔書ヲ其原証書ト共ニ違スヘキノ權アリト
 ス同氏云前ニ云フ所ハ其役所ニ保持スル証書
 ノ本唇ヨリ其寫シ又抄書ヲ為ストトシ後ニ
 云フ所ハ甲ノノテールルノ認メテ其人ニ共ニ
 其証唇ノ寫シヲ持テ乙ノノテールルニ差出シタル
 時乙ノノテールルニ此寫ノ再寫ヲ為シテ能ク校合
 シテ其原唇ト共ニ違スヘキノ權アリト云フ事
 ニテ其差違聊而テ国法ニ於テ取消サ、ル所ノ
 ノモノトス 而テ国法ニ於テ取消サ、ル所ノ
 諸証書ノ抄書ハ其人ノ所持セル証書ト同一音
 ノ文字ナラサルヲ得ス而テ其証書ノ発端ト終
 リトニ記載シアル箇條ヲ同氏云証唇ノ題
 号年月日等ナリ其ノ
 鈔書ニ書キ加ヘ且ツ其証書ニ關係セル人ノ姓

名職業等ヲモ書キ加フヘシ而テ抄書ノ終リニ
 ハ證書ノ文字ト同一音ノ鈔書ヲ為シテ違シタ
 ル事ヲ記載スベシ如此規ニ違フアレバ各一
 件毎ニ二十フランク以上百フランク以下ノ罰
 金ヲ命ゼラルベシ又証書ノ寫シヲ人ニ遣ル時
 ハノテールルノ役所ニアル証書ノ本書ニ其寫シ
 ヲ出シタル年月日且ツ其人ノ姓名ヲ記シ「ノ
 テールル並ニ其本人此レニ筆押ヲ画スベシ如此
 此レニ違フアレハ百フランク以上二百フランク以
 下ノ罰金ヲ命ゼラルヘシ

第四十一條

裁判法ニ依リテ裁判人ノ命令スル時ト各人ノ親カラ認メシ遺言状ノ外ハ「ノテール」ノ役所ニ預ル所ノ證書ノ本書ヲ他ニ出スヘカラス

第四十二條

「ノテール」ハ其證書ノ本人及ヒ其後嗣者ノ外ハ其證書ノ寫シ又抄書ヲ遣ルヲ得ズ又其證書ノ意ヲ人ニ話シ且ツ示ス事ヲ禁ズ此ノ規則ノ取リ消シハ裁判上ノ事ト公ノ記録ニ寫スヘキ事ノ圍法ニ於テ定マリアルモノ而已ナリトス「ノ

テール」如シ此規ニ違フアレバ百フランク以上二百フランク以下ノ罰金ヲ命セラルベシ如シ違規再三ニ及フ時ハ三ヶ月以上六ヶ月以下其官ヲ停止セララルベシ其他如シ人ニ損害アル時ハ亦是ヲ償フベシ

第四十三條

「ノテール」ハ其證書ニ關係セル各本人又其後嗣者ヘ其證書ノ寫シ一枚宛ヲ與フルヲ得ベシ而テ此寫ノ上端ニ眾人捕牒又裁判申渡シ書ト同一様ニ國王ノ權ヲ以テ認メシ者ナリト書キ記

スヘシ又其寫ノ下端ニハ寫シテ願ノ人ノ姓名
及ヒ其寫ヲ出ス時ノ年月日且ツ此ノ寫シハ其
証書ノ初テノ寫シタル事ヲ書記スベシ「ノテ
ル」如シ此規ニ違フアレバ二十フランク以上百
フランク以下ノ罰金ヲ命ゼラルベシ又抄書ハ
總テノ証書ノ寫シト同様ノ大キナル文字ニテ
且ツ国王ノ權ヲ以テ認ムト云語ヲ昏記スベカ
ラス此レニ付テノ取り消シハ遺物ノ目錄ノ証
書覽賣ノ証書覽賣ノ証書物ノ請負入札ノ証
書ホノ抄書而已ナリトス而テ其等抄書ニハ買入

事、貸ス事又請負入札等ノ委キ有様ハ其証書ノ
本文ニアル通ニ抄寫スベキ事トス

第四十四條

「ノテール」ハ本人ニ再度ノ寫ヲ渡スベカラス然レ
モ裁判法ニ依テ裁判官ノ別段ニ許セシ「ハ
之ヲ渡シテ苦シカラス若シ此ノ規ニ違ヘハ三ヶ
月以上六ヶ月以下ノ間其官ヲ停止セララルベ
シ而テ其再度ノ寫ヲ渡ス片ハ其証書ノ本書ニ
其事ヲ記載シ置クベシ而テ其ノ寫ノ仕方及ヒ
罰金ハ前四十ヶ條ノ末文ノ定規ニ從フベシ



第四十五條

各ノノテールハ其印判ヲ所持ス可キコトナリ其形
○ノ如クニ製スベシ而テノノテールハ各人ニ渡ス
總テノ証書并其寫シ且抄書ニ此ノ印判ヲ押
シ又諸書付类ノ綴目ニモ亦此ノ印判ヲ押スベ
シ若シ此レニ違フアレハ其各事ニ付セフラン
クノ罰金ヲ命ゼラルベシ

第四十六條

証書ヲ認メレノノテールノ住所外ノノアル郡
スマンレノ裁判所ニ於テ其証書ヲ用エルコト
ルハ其ノノテールノ居住セルノアル郡ニ於
シテノ裁判所ニテ其印判ヲ請合スベキコトト
ス

第四十七條

公ノ記録ニ証書ヲ書入ル、事ノ國法
役所或ハ町ノ役所ハ夫ハ記
ル法アリテノノテールニ之ヲ取扱フコトナリ
定リアルノ外自分ノ日記ハ他ノノテールノ
作りシ証書ノ寫シ又其鈔書ヲ人ニ渡シタルコト
モ記載スベキコトナリ若シ此レニ違フアレハ其罰
金ハ三十八條ニ記載スル者ニ同シトヌ又本

書ヲ書留メスニ出シタル証書ハ或ハ二三枚ヲ
一同ニ出ス氏其日記ニハ同シ番号ノ内ニ併合
シテ記載シ置クベシ

第四十八條

ノテールハ一年間認メシ証書ノ日記ノ寫ヲ每
年ノ始メニヶ月内ニ自分或ハ委任ノ名代人ヲ
以テ其住所ノ州ノ裁判所ノ書記局ヘ納ムベキ
トトス若シ之ヲ急リ過ル一ヶ月ニ及ハハ廿フラ
シクニヶ月ハ四十フラシク三ヶ月ハ六十フラ
シクノ罰金ヲ命セラル可シノテール若シ一年

内証書ヲ作ラズ或ハ他ヨリ持来ル証書ノ寫シ
及ヒ鈔書ヲ渡スヲモナケレハ自分又ハ名代人
ヲ以テ其事ヲ裁判所ノ書記局ヘ届クベシ若シ
之ヲ急ツレハ罰金ハ右ニ同シトス而テノテール
ルハ其日誌ヲ六月一日ニ至ル迄猶裁判所ヘ納
メサルヲアルハ右罰金ノ外三ヶ月間其官ヲ停
止セラルベシ而テ其三ヶ月ノ終リニ至リテ猶
且ツ納メサル時ハ即チ其官ヲ免スベシ如シ第
二月尽日日曜日ニ相当スレバ上ニ云フニヶ月
内ニトハ其前日迄ニ納メサルベキモノナリ

第四十九條

裁判所ノ書記官ハ「ノテール」ノ日記ノ寫ヲ受ケ
タルニ付キ其請取書ヲ渡セシ「ヲ夫」ガ為メニ
作タル記録ニ書載スベシ如シ談「ノテール」ノ
名代人ノ来リシ時ハ其委任状ヲ其記録ニ綴付
シ置クベシ

第四章

「ノテール」ヲ監督スル「及ヒ」ノテ
ールノ取立ツヘキ謝金ノ「

第五十條

「ノテール」ハ其身分ノ貴キ「ト職掌」ノ「ヲ等閑
ニシ」或ハ國法ニ背キ或ハ惡事ニ付テ罪ヲ得ル
様ノ「アル」ハ「アル」シテ「マシ」ルノ裁判所ノ檢事
ヨリ裁判官ニ報告スルナリ而テ「ノテール」果シ
テ其罪アルトキハ國法ニ於テ定マリシ罰ノ外
ニ其「アル」シテ「マシ」ルノ裁判官一應取記シ其
答ニヨリ衆議ノ上ニテ之ヲ訓戒シ或ハ之レヲ

遣責スルノ權ヲ有スル者ナリ若シ「ノテール」已ニ再ニ遣責ヲ受シ後又遣責ヲ受ル「アルハ裁判官ノ裁決ニ依テ三ヶ月以上六ヶ月以下其官ヲ停止セラレ而テ四ニ至リテハ必ス其官ヲ免ズルナリ

第五十一條

「ノテール」ヲ刑法ニ處スル裁判言渡シ書ニハ「ノテール」ノ官ヲ免ズル「ヲ必ス記載ス可シ即チ其日ヨリ其役義ハ消盡スルナリ又「ノテール」如シ刑法ニ於テ入牢ニ處セラレ時ハ検事ノ意見

ヲ以テ或ハ生涯其役ヲ禁止セラレル「アルベシ

第五十二條

「ノテール」如シ年老疾病ニ依テ其職務ヲ十分ニ勤メ難キ時ハ「アルコンダスマン」ノ裁判官ヨリ州ノ裁判所ノ検事報告シ而テ該検事ノ申申又ハ「ノテール」ノ申述或ハ州ノ裁判官ノ検査ヲ以テ国王ヨリ無滞其官ヲ免スルモノナリ

第五十三條

「ノテール」ハ病氣或ハ事故ニ依テ暫時其職務ヲ

勤メ難キ時ハ自分或ハ妻又ハ親屬ヨリノ願ヲ以テ其地ノ裁判所へ申述シ近隣ノ「ノテール」ヲ以テ名代人トナシ其事務ヲ兼勤セシムヘシ而テ該名代人ハ兼勤ノ事務ヲ残ラス引受取扱フ「ナリ又病氣其他ニテ引込居ル「ノテール」ハ公用ノ書類ヲ何時ニテモ名代人ノ見易キ様ニナシ置ク可シ之ヲ拒ム時ハ其官ヲ免スル程ノ罰アリトス而テ其引込ノ事故済ミシ時ニハ自ラノ願或ハ裁判官ノ勸メニ依テ名代人ヲ止メルヲ得ベシ

第五十四條

「ノテール」如シ凡テノ規則ニ違フ時ハ檢事ノ訴ニ依テ民法ニ關係セル裁判人其事ヲ取捌クナリ而テ其捌ノ順序証據立テノ方法且ツ上等裁判所へ控訴スル等ノ事ハ刑法ノ事ヲ取捌クト同様ニ取扱ハル、ナリ而テ其訴ヲヤメル事又其訴ノ消ヘル事且ツ捕牒及ヒ裁判言渡ノ事ニ付テハ沿革法ノ二十三章及ヒ十七章ノ定規ニ随フベシ

第五十五條

ノテールノ其官ヲ停止セラルベキ事ノ訴へ及
ヒ官ヲ免ゼラルベキ事ノ訴へ又其ノ規則ニ違
フニ付得金ヲ言ヒ渡サラルベキ事ノ訴此三ツノ
訴ハ二年ヲ過テ後ニ為スヲ得ス而テ其年時
ハ五十九條ニ記載セル其ノテールノ罪ヲ知り
得タル日ヨリ計算スベキモノナリ

第五十六條

ノテールハ裁判官ノ言渡ヲ以テ官ヲ停止セラ
ル、時同時ニ近通ノノテール其レノ名代人ト
為ルベキ事ヲ命セラルベシ而テ此ノ名代人ハ

前ノノテールノ職務ト聊モ不同ナク証各類ノ
總テノ取扱ヒヲ為スベキ者トス而テ該官ヲ停止
セラレシノテールハ今其名代人トナリシ者
ニ其役所ニアル証書類ヲ何時ニテモ見セ示ス
ベシ如シ之レヲ拒ム時ハ其官ヲ免セララルベシ

第五十七條

既ニ一ニ罪ヲ犯シテ其官ヲ停止セラレシ事ア
ル者再ヒ又其官ヲ停止セルベキ程ノ事ヲ犯セ
ハ或ハ官ヲ免セララルベシ如シ其罪三ニ及ブ時
ハ必ス其官ヲ免セララルベシ

第五十八條

「ノテールルハ如シ罰金ノシニ定マルベキノ罪アル時自ラ其罰金ノ多キ負數ヲ同氏云幾令ハ罰金ノ負數百フラシクヨリ二百フランク迄ノ定リナレハ其多數ニ百フランクヲ拂フナリハ拂フテ其訴訟ヲ止ル事ヲ得ベシ然氏其事已ニ訴訟ノ手數ニ及ビタル時ハ又其入費ヲモ一同ニ拂フベシ然氏「檢事ミニスニテトルピウブリークノ命令書ナクシテハ其事ヲ為スヲ得ス而テ此ノ罰金ヲ拂シ時ハ其罰金ヲ拂フヘキ所ハ裁判「ミニステルピウブリークノ定メタル日限中ニ其請取書

第五十九條

「ミニステールピウブリークニ出スベシ
公ノ記録ヲ守ル官吏ハ「ノテールルノ若シ規則ニ違タル事アルヲ知ラハ則チ其ノ証書ヲ認メ三日ノ内ニ其寫シヲ該「ノテールルヘ渡スベシ而テ其証書ハ認メシ日ヨリ一月内ニ其事ニ関係スル相当ノ役人ニ送ルベシ

第六十條

「ノテールルノ受ベキ謝金ノ高又其取立方ヲ定ムル為ニ司法官署ヨリ其定則書ヲ出スナリ而テ

ノテールハ何様ノ場合ト虽モ此定則ノ外謝
金ヲ受ルヲ得ズ且口其定則書ハ三年ノ内ニ該事
院ノ法ヲ以テ或ハ改正スル事アルベシ

第五章

証書又証書ノ目錄并ニ其役所ノ
日録ヲ預リ保ツノ法

第六十一條

「ノテールハ証書又証書ノ目錄且其役所ノ日録
ヲ用心シテ預リ保テ而テ常ニ定リシ無難ノ場
所ニ錠ヲ鎖シテ之ヲ藏メ置クヘシ

第六十二條

如シ「ノテールニ死去スル時ハ其遺物相統ノ權ア
ル人ヨリ二十四時間ニ其「ノテールノ住所「ア
ルロ^即チスコシノ裁判官ヘ其事ヲ報知スヘシ

又官ヲ免セラレタルト他ノ「カント」ニ移サレ
タル「ノテール」ハ亦同シ時間ニ其免移ノ報知ヲ
ナスヘシ而テ此レノ裁判所ト彼レノ「ノテール」
ノ住所トノ距離若シ十二時間行程以上ナル時
ハ二十四時間ニ其事ヲ報知スルヲ得ヘシ而テ其
以上ノ行程ハ亦之ニ准ス

第六十三條

「^{換事}ニステール」^{ボウ}「^プリーク」ハ「^ノテール」ノ死去シ
退職シ或ハ他ニ轉セシ事ヲ承知シタル時ニハ
速ニ其附近ノ「^ノテール」ヲ其名代人ト為スヘキ

事ヲ心配スヘシ而テ其人物ノ用捨ハ「^ノテール」
ヂスマン」ノ裁判官ノ權ニアル者ト又如シ其死
者ノ遺物相続ノ權アル人ヨリ其死者ノ報知ヲ
為サス却テ他ヨリ其確報ヲ得ハ「^ノテール」
「^{ボウ}グリーク」ハ則チ其報ニ依テ以テ其心配ヲ為
スヘシ而テ「^ノテール」ノ眾ヲ得テ免職シタル時
モ亦之レニ同シ

第六十四條

名代人トナリシ「^ノテール」ハ其死者ノ保持セシ
証書類ヲ能ク纂調シ死者ノ職ニアリテ奉務セ

シ諸事ヲ継キ勤ムヘキ者トス而テ其引受ル所ノ証書ノ本書且ツ証書ノ目錄書及ヒ其他ノ書類ノ総目錄ヲ簡略ニ作り其名代人タルヘキノ命ヲ受ケレ日ヨリ四十二日間ニ其寫ヲ「アルロングスマン」ノ裁判所ノ書記局ヘ納ムヘシ如シ其事ヲ怠ル時ハ其定マリノ時期ノ外一週日毎ニ二十フレンクノ罰金ヲ命セラルヘシ而テ其定マリシ時間ニ其死者ノ後嗣者モ亦其寫ニ自ラ華押ヲ画シテ典フヘシ如シ此事ヲ怠ル時ハ其罰金上ニ同シ此二通ノ寫シノ事ヲ三ヶ月

ニ及ヒ尚怠ル時ハ其名代人タル「ノテール」ハ三ヶ月間其官ヲ停止セルヘシ而テ其三ヶ月間ニ猶怠ル時ハ其名代人ノ任ヲ免セラルヘシ

第六十五條

前「ノテール」ノ總ヘテノ書類ハ其後任ノ者ノ命セラル、間ハ其名代人タル者ノ預リ保ツヘキ者トス而テ其後任ノ「ノテール」ノ其職務ヲ始テ行フ日ヨリ十四日間ニ其名代人タル者ハ是レ迄預リ保チシ書類ヲ盡ク其人ニ渡スヘシ如シ以後此場所ニ「ノテール」ヲ置サルニ於テハ其前ノ

「ノテール」ノ死免或ハ其他ノ事アリシ其年ノ
一月一日ヨリ以前三十年迄ノ証書其他ノ書
類并ニ其年ノ一月一日ヨリ以來其名代人タルヘキ
命ヲ受ケシ日迄ノ証書其他ノ書類ハ永ク其者
ノ預リ保ツヘキ者トス而テ其三十年ヨリ猶以
前ノ証書及其他ノ書類ハ以後「ノテール」ヲ置
カサル事ノ決定セシ日ヨリ三ヶ月間ニ第六十九
條ニ記シタル「アルロン」ガスマテ「ノテール」ノ証書預リ役
所ヘ送ルヘシ如シ其所ニ後任ノ「ノテール」ヲ命
スル時ハ其者ハ名代人タル「ノテール」ヨリ証書其

司
法
官

他ノ書類ヲ請取リテヨリ後々三ヶ月間ニ前
ニ云フ所ノ三十年ヨリ以前ノ旧キ証書類ハ又
其ノ証書預リ役所ヘ送ルヘキ者トス

第六十六條

旧キ証書類ヲ其ノ預リ役所ヘ送ルヘキ事ヲ前
條ニ記シタル時間ニ如シ急リテ為サ、ル時ハ
其「ノテール」ハ其急リノ一週日毎ニ二十フラン
クノ罰金ヲ命セラルヘシ而テ其「アルロン」ガスマ
テ「ノテール」ニミニステールピウブリーツ」ハ其「ノテール」
ノ旧キ証書類ヲ其預リ役所ヘ搬ヒ送ル可キ事

司
法
官

ノ心配ヲ為スヘシ而テ其一週日毎ニ罰金ノ増
加スル事ハ其搬運ノ事ノ全ク了リシ日ニ至ル
マテノ日数ヲ美計スヘシ

第六十七條

後任ヲ命セラレタルノノテール其旧キ証書類ヲ
其預リ役所ノ官吏ヘ渡ス時ニハ其簡略ニ作り
シ旧キ証書類ノ総目錄ノ末卷ノ終リニ其渡シ
タル事ト又請取リタル事トヲ書記シ置クヘシ
如シ旧キ証書類ニ不足ノモノアレハ又其不足
スル書類ノ其年時ト番号トヲ記スヘシ且ツ旧

キ証書類ヲ其預リ役所ニ搬ヒ渡シタル時ハ乃テ其
証書ヲ作り而テ其渡シタルノノテールニ其寫
シ一枚ヲ與フヘシ如シ此ノ後任ヲノノテール
アルロンゲスマンレノ府下ニ於テ最後輩ノ者
ナラハ其時ニハ旧キ証書類ヲ預リ役所ヘ預
クル事ハ府下ニ於テ最先輩ノノノテールノ指揮
スヘキ者ニテ而テ其渡シ請取ノ事ノ証書ハ
其先輩ノノノテールノ認メ作ルヘキモノトス

第六十八條

死去セシノノテールノ親カラ認メシ願書ヲ以テ

同村或ハ同「カ邑」トシテ住居セル他ノ「ノテール」
ヲ其後任ニ相当トシテ是ヲ勸挙シ而テ「アルロ
ン」ガスマンレノ裁判所ニテ談人ヲ其後任ニ決定
スルニ於テハ其時ニハ前教條ニ云フ名代人ナ
ル「ノテール」ノ事ハ不用ニ属スル也此ノ場合ニ
於テハ死者ノ遺物ヲ相続スル權ノアル人ハ第
六十二條ニ記スル其ノ死去ノ報知ト共ニ裁判
所ニ其願書ヲ出スヘシ而テ裁判所ニ於テハ其
事ヲ吟味シテ其決定ヲナスナリ而テ其死去セ
レ「ノテール」ノ証書類ヲ預リ保ツ事ト又其三十

年ヨリ以前ノ証書類ヲ証書預リ役所ニ搬ヒ渡
ス事ニ付テ前教條ニ記セシ事ハ其死者ヨリ勸
挙セラレシ後任ノ「ノテール」ノ遵ヒ守ルヘキ者
ナリ

第六十九條

裁判所アル「アルロ」ン「ガスマンレ」ノ府下ニハ証書
類預リ役所ヲ建ツベシ此預リ所ハ裁判所内ニ
於テ其書記局ノ外別ニ造ルベキ事トス而テ其
證書類ノ預リハ府下ニ於テ最後輩ノ「ノテール」
ニ命スル者ナリ而テ此書類ノ取扱方ハ他「ノテ

一ルノ証書取扱方ニ替リシコトナク且ツ第四十
一條ニ記セシ事柄ノ外其書類ヲ出スコトヲ得ス

第七十條

死去又ハ退役シタルコトノテールニ其ノ旧書類ヲ從
來ノ法ニ依リ「アルロンダスマン」内ノ各村ニ
在ル預リ所へ置シモノアレハ此ノ規則ヲ施行
セシ日ヨリ後六ヶ月間ニ「アルロンダスマン」ノ
府下ノ證書預リ所へ運ヒ移スベシ

第七十一條

現ニ在勤セル「コトノテール」ハ其ノ役所ニアル三十
年ヨリ以前ニ係リシ証書類ヲ其預リ所へ渡ス
コトヲ願得ベシ而テ其許ヲ得テ是ヲ搬運スルコ
トハ第六十七條ノ規則ニ遵フベシ

第七十二條

「アルロンダスマン」ノ府下ニ於テ最後輩ノ「コト
ノテール」死去或ハ退役又ハ他ニ轉移又ハ暫ク官ヲ
停止セラル、時其証書預リノ事ハ直ニ府下ニ
於テ最先輩ノ「コトノテール」ニ任ズルナリ而テ新
任ノ「コトノテール」ノ命ゼラル、マデハ順次ニ其先輩
ノ「コトノテール」ハ其事ヲ任ズルモノトス而テ其新

任ノ者其命ヲ受ケシ日ヨリ十四日ノ間ニ預リ
所ノ任ヲ知ルコトヲ命スルモノナリ

第六章

一般ノ諸規則

第七十三條

此ノ規則ニ明ニ記載スルコトノ外如シ証書ノ
書法ノ其規ニ違ヘルノ故ニ其証書ノ權ノ消却
スル事アリテ其人ノ損害トナル時ハ其証書ヲ
認シコトノテールハ是レヲ償フベシ如シ文章上
ニ詐偽不直ノ所為アル時ハ其償ヒノ外亦相

當ノ罰ヲ受クベシ

第七十四條

第六十條ニ記シタル所ノ謝金定則ノ出来ニ至
ル間ハ旧法ニ依リテ謝金ヲ請取ルベシ而テ其
事ニ付テ如シ証書ヲ頼ム人ト其コトノテールト
ノ間ニ議論ノ生ズル時ハコトアルロシテスマンレノ
裁判所ノ長官其事ヲ裁定スベシ又裁判所ノ
長官ハコトノテールノ受ケシ謝金ノ税ヲ取立ツベ
シ而テ未ダ丁年ニ至ラザル者ハ關係スル遺物
且ツ監財人ノ保護ヲ受ル人ニ關係スル遺物或

ハ貧院病院等ニ在リテ後ニ人ノ遺物ヲ受ル人
ニ關係スル遺物又其身該地ニ在ナル後嗣者ニ
關係スル遺物分散シタル人ニ關係スル遺物受
クベキ者ノナキ遺物凡テ此等ノ遺物ノ証書ノ
為ニ「」ノテ「」ルノ受クル謝金ニ就テ裁判官ハ必
ス其稅ヲ取立ベキ者ナリ

第七十五條

此規則ヲ施行セサル以前ヨリ命セラレタル「」
テ「」ルハ其住所ノ「」アルロンダスマンレニ於テ
此ノ規則ヲ遵守シテ其職ヲ勤メ続クベシ又

第八條ニ記載セル事ニ違ヒ該官ノ外ニ以前ヨ
リ他官ヲ兼任セル「」ノテ「」ルアレハ亦其係ニテ
勤メ続キヲ為スヲ得ベシ

第七十六條

前條ニ云フ所ノ勤メ続キタル「」ノテ「」ルハ此ノ
規則ヲ施行スル時ヨリ一ヶ月間ニ其住所ノ「」
ルロンレスマンレノ裁判所ニ於テ下ニ云フ所ノ
誓ヒヲ為スベシ如シ其事ヲ怠ル時ハ第八條ニ
記スル所ノ罰ヲ受クベシ
其誓ヒハ其「」ノ「」ル
ノ官ヲ求ルル為メニ人
ニ金ヲ贈リ又ハ贈ラント約シタル事ナキト
云フ件ヲ取除ケテ他ハ皆十八條ニ同シ

テ国王ハ其ノ一ヶ月ノ時間ヲ延ブルノ權アリ
トス又「ノテール」ハ其ノ一ヶ月間ニ第二十条ニ
記シタル事ヲ亦執リ行フべシ如シ其事ヲ急ル
時ハ即チ該條ニ記スル所ノ罰金ヲ命セラルべ
シ又其一ヶ月ノ時間ニ第四十五條ニ記スル所
ノ印判ヲ製造シ其一ヶ月ノ終ル日ヨリ將來
其印判ヲ用エべシ

第七十七條

此規則ヲ未ダ設ケサル以前ニ「ノテール」ト
ルヘキノ免許狀ヲ得テ滿二十三歳ニナル人
レハ今此ノ規則ヲ設ケタルト雖モ其人ハ即チ
「ノテール」ト為ルヘキ者トス

第七十八條

各「ノテール」ニ於テ多人数ノ「ノテール」
勤メ続キヲ為シテ其員第三條ニ記スル所ノ定
額ヨリ過クル時ハ其等ノ「ノテール」或ハ死シ
或ハ免職シ又ハ他ニ轉移スル等ニ依リテ「ノテ
ール」役所ノ二ヶ所空位ニナリタル時国王ハ
其後任トシテ「ノテール」一人ヲ命スルノ權アリ
トス而テ其員ノ減シテ定額ニ至ル迄ハ其更

ヲ為シ行フモノトス

第七十九條

此ノ規則ヲ未タ設ケサル以前ニ試験ヲナシタル官吏ノ其各々ノ記録ハ此ノ規則ノ行ハルハ時ヨリ三ヶ月間ニ其各々ノ試験掛官吏ノ其長官ノ心配ヲ以テ第六十九條ニ記セル各「アルロンゲスマン」ノ証書預リ役所へ納ムヘシ如シ其事ヲ怠レハ一週日毎ニ二十フランクノ罰金ヲ命セラルヘシ其他第六十六條ノ下文ニ記スル所ノ事ハ亦此ノ條ニ通用スヘキモノトス而テ上ニ云フ所ノ事ニ付テハ各「アルロンゲスマン」ノ証書預リ所ノ「ノテール」モ亦六十九條ニ記載スル所ヲ遵守スヘシ

第八十條

國王ハ此ノ規則ヲ一般ニ施行スル日時ヲ定メ以後從來ノ舊法ハ悉テ廢止スル者ナリ

第八十一條

此「ノテール」ノ規則ハ官ノ新聞紙ヲ以テ公告ヲ為シ而テ此規則ニ關係スル諸官省及ヒ各官吏ハ此ノ規則ノ細密ニ行ハル、様ニ勉テ能ク之

レヲ保助スヘシ

千八百四十二年第七月九日ハーグニ於テ

王名華押

國王ノ書記局ノ長官姓名華押

千八百四十二年第七月十三日布告

國王ノ書記局ノ長官姓名華押

「ノテール」ノ定負

各「アルロンゲスマン」ヘ置ベキ「ノテール」ノ負數
ヲ定メ而テ其事ハ官ノ新聞紙ノ本年第六号ニ
記載セリ于時千八百五十一年第一月十八日
和蘭國王「ウイレル」三世ナル余ハ千八百
四十二年第七月九日「ノテール」規則才三條
ヲ承認シテ千八百四十九年第九月十九日ノ法
ニ依テ改メシ所ノ人口ニ割合ヒ各「アルロンゲス
マン」ヘ置クベキ「ノテール」ノ負數ヲ決定セシタ
メ司法卿ノ千八百五十年十一月二日ノ上申ヲ

承ケ千八百五十年十一月二十九日ニ參議官ノ評議ヲ聞キ千八百五十一年一月十九日ニ重テ司法卿ノ上申ヲ承ケテ此ノ下條ノ事ヲ確定セリ

第一條

各「アルロンゲスマン」ニ配置スベキ「ノテール」ノ其多キ員數ハ左ニ定ケル所ノ如シ
ノ「トルドブラバン州」ニ於テ

第一ノ「アルロンゲスマン」ニ四十六人

第二同 二十一人

第三同 三十一人

合計九十八人

ゲ「デーデルラント州」ニ於テ

第一同 三十一人

第二同 十七人

第三同 二十六人

第四同 十五人

合計八十九人

ソ「イドホルラント州」ニ於テ

第一同 三十人

第二同

二十四人

第三同

四十五人

第四同

十七人

第五同

十二人

第六同

十人

合計百三十八人

ノールドホルランド州ニ於テ

第一同

六十人

第二同

十五人

第三同

十九人

第四同

十八人

合計百十二人

セーランド州ニ於テ

第一同

十六人

第二同

十五人

第三同

八人

合計三十九人

ウトレクト州ニ於テ

第一同

二十三人

第二同

十三人

合計三十六人

フリースランド州ニ於テ

第一同

三十四人

第二同

十三人

第三同

十三人

合計六十人

ヲフエルユイセル州ニ於テ

第一同

二十人

第二同

十六人

第三同

十六人

合計五十三人

グローニンゲン州ニ於テ

第一同

十九人

第二同

十四人

第三同

十二人

合計四十五人

ドレンテ州ニ於テ

第一同

十六人

リムボアルグ州ニ於テ

第一同

二十七人

三
六
人

同
表
分

第二同

二十三人

合計五十人

總計七百三十五人

同氏云日本和蘭ニ於ル其人口ヲ比較セハ凡ソ十

倍ト積リテ七百三十五人ナルベシ

第二條

此ノ規則ヲ施行スル以前ノ「ノテール」ノ負數ノ定マリハ以後廢止スル者ナリ而テ司法卿ハ此ノ規則ニ定マル所ノ「ノテール」ノ負數ノ事ヲ擔任シテ執リ行フベシ又其負數ノ定メハ官ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ且ツ其ノ負數

ノ定メ書ノ寫シ一枚ヲ國議院ニ送ルベシ

千八百五十一年第一月十八日「ハーグ」ニ於テ

王名華押

國王ノ書記局長官并司法卿姓名華押

謝金ノ事

第一條 書留置サレ証書ニ付「ノテ」ルハ定
 額ノ謝金ヲ取ルベシ假令此ノ証書ヲ自分
 ノ心得ノ為メ書留置シトモ其謝金ハ定額
 ノ通りタルヘシ而テ第二條ニ記載スル事ハ
 之ニ関セサルナリ 初ノ談判ヨリ下書及ヒ淨
 書マテノ手数ヲ併セテ一枚ノ書_下証_上ニ付謝金
 六フランクト定々如シ此等ノ証書別段ニ長文
 ナレハ謝金九フランクニ増加ス 此等ノ証
 書ヲ二枚或ハ数枚ヲ一枚ニ出タス時ハ内一

一枚ニ付定額ノ謝金其餘ハ一枚ニ付半額ツ、
ノ謝金ヲ取ルヘシ 証書ノ書留メヲ本人ヨ
リ願ハザルニ「ノテール」其心得ノ為メ書留置
クトモ別ニ謝金ヲ取ルヘカラス

第二条 「ノテール」ノ取立ヘキ勅定金ハ左ノ如
シ

第一 為替手形ヲ拒ムノ証書ニ付六フランク
但シ此等証書ニ奥書調印ヲナス時ハ
一フランク半ヲ増ス

第二 拂方ノ金高ヲ拒ムノ証書ニ付五フラ

ンク半

第三 前二條ノ事ニ付証據人ヲ呼出ス時ハ
証人一名ニ付半フランク宛ヲ取立テ
証人ニ渡スヘシ

右等ノ事ニ付「ノテール」出行ノ時ハ道程五里
ニ付ニフランクノ路費ヲ取立ヘシ但シ歸路里
数ハ美セス

五里以内ニ里半以外ハニフランク五里以外
ハ四フランクノ割合トス 一事ニ付出行ノ
時道筋ヘ立寄ルトモ最遠ノ到着所マテノ里

数ヲ算シテ路費ヲ定ムヘシ各証據人ヲ呼出
ニ付路費ハ右ノ半減トス

第三條 書留メ置ヘキ証書ニ付「ノテール」ノ取
ルヘキ謝金ハ左ノ如シ

初メノ談判ヨリ下書及ヒ淨書ヲナスマテノ
時間ノ一時ニ付三フランクノ謝金ヲ取ルヘ
シ但シ一時未滿ノ端數ハ一時ヲ以テ算スヘ
シ

第四條 前第三條ニ記載スルノ外「ノテール」ハ
次條ノ事ニ付別段ノ謝金ヲ請取ルヘシ

第一 第七年即チ千七百九十八年三月廿二

日ノ定規ニ記載シタルセリ賣ノ「ラ
除キ民法ノ五百六十二條五百六十三
條五百六十四條五百六十七條不動産
及ヒ動

産ノ種類
ヲ載スニ記載シタル物品ノ覺賣及

ヒ十噸以上ノ船ノセリ賣ノ時其賣極
メタル價六千フランク未滿ハ百フラ
ンクニ付一フランク六十フランクヨ
リ二萬フランクマテハ其最高數即チ
二萬フランクノ百ニ付半フランク二萬フ

百六十一

ランクヨリ五万フランクマテハ最高
数ノ百ニ付四分ノ一五萬フランクヨ
リ以上ハ、幾萬ニテモ百ニ付八分ノ一
ヲ請取ルヘシ一人ニテ各種ノ物ヲ同
時ニ賣ニナス時ハ各種ノ價ヲ合算
シテ其謝金ヲ定ムヘシ

第二

公ノ覺ヲ以テ物ヲ他人ニ貸ス時ニハ
其貸賃ノ百ニ付半フランクヲ請取ル
ヘシ

物ヲ貸スニ数年間ノ約束ナレハ初メ

ノ二年間分ハ全貸賃ノ百フランクニ
付半フランク其餘年分ハ其半減ヲ
請取ルヘシ

第五條

シ

第一

「ノテール」ノ役所ニアル証書ノ本書ヨ
リ寫ヲ他人ニ渡シ及ヒ抄書ヲ渡ス
時ニハ紙一枚ニ付謝金一フランクヲ
取立ツヘシ一枚ハ廿七行ニテ而テ其
一行ハ十二語ヲ云
字数ノ一行ニ滿タサル者ハ亦一行ヲ以

同法

テ箕スヘシ下書ノミニテ調印ナキ証
書ノ字又抄書ヲナス時ハ右謝金ノ半
ヲ取立ツヘシ

第二 「ノテール」ノ職分ヲ以テ書簡ヲ作り或
ハ未簡ヲ読ク時ハ謝金一フランク半
ヲ取立ツヘシ 此書簡类别段ニ長文
ナルカ或ハ殊ニ緊要ノ「」ナレハ亦三
條ノ通り謝金ヲ取立ツヘシ

第六條 「ノテール」ハ証書ヲ作ル為メニ用ル所
ノ証印税及ヒ郵便賃ノ外ニハ第二條ニ記載

スル証書ヲ作ル時証人ヲ役所ニ留置ニ於テ
ハ毎一人一時間ニ付半フランクヲ取立テ之
レヲ証人ヘ渡スヘシ 然レモ此証人ヘノ謝
金ハ一人ノ仕事ニ付テ決メ三フランクヲ越エ
ヘカラス

第七條 「ノテール」ハ第二條ニ記載セサル仕事
ノ為メ或ハ本人ノ願ニ依リ或ハ規則ニ依テ
自ラ役所ヲ出テ他行スル時ハ其仕事ニ付テ
定マリタル謝金ノ外役所ヨリ路程五里ニ付
三フランクノ旅費ヲ取立ツヘシ且船車馬ノ

兼賃及ヒ旅籠料ハ別段ニ取立ツヘシ而テ可
成丈其旅籠屋ホノ請取書ヲ以テ其證ヲ立ツ
可シ

第八條 「ノテール」ニ事ヲ頼ミシ其本人ヨリ細
密ナル勘定書ヲ請フ片ハ「ノテール」ハ之ヲ拒
ム「ヲ」得ス此勘定書ニハ仕事ヲナセシ年月
日ヲ認メ且ツ時間ヲ以テ計ル謝金ハ其時間
ヲ詳ニ認ムヘシ「ノテール」ノ勘定書ニハ決
テ本人ノ頼ミシ事ニ關係セサル「ヲ」認ムヘ
カラス

第九條 本人ニ於テ勘定ヲ拂フ「ヲ」忘リ又拒

ム事ノ爲メニ左ニ説明ス如クシテ價ヲ定ム
ル「ト」ス 後見人ノ仕事成ハ遺物遺債取

調ノ仕事 遺物ヲ受ツヘキ人其遺物ト借財ノ
高ヲ取調ル「ト」裁判所へ願出テ其

目録書未ノ上遺物ノ高若シ借財高ヨリ多
ケレハ遺物ヲ受ル「ト」承諾シ否ラサレハ之
ヲ辞スル「ト」ア 無主遺物ノ仕事 前文ノ如ク遺
物ヲ受ル「ト」ア
スルカ或ハ遺物ヲ 受ル人ナキヲ云 受ル時ハ常ニ必ス明細ナ
ル勘定書ヲ以テ裁判所ノ調へテ経テ取極ム

ベキ「ト」ナリ然レモ第一條ニ記載スル仕事ニ
付謝金ヲ取ル「ト」並才ニ條ニ記載スル仕事ニ

同法

付謝金ヲ取ルコトハ裁判所ノ調ヘヲ受ルニ及
ハス

第十條 價ヲ定ルト云フコトハコトノテールノ位所
ナルコトアルロシテモシレノ裁判長官或ハ其代
理人ニテ取調ヲ為スコトナリ此勘定書ニハ証
印紙ヲ用フヘシ此書式ハ謝金ノ庶ニ逐一明
細ニ表ヲ造リ金高ヲ認ル處ノ紙末ニ餘白ヲ
存シテ認直シニ備ヘ置クヘシ此ノ勘定書
ノ下タニ「ノテール」某勘定書ヲ納ムト認メ
且ツ其下タニ年月日ト「ノテール」ノ筆押ヲ

認ムヘシ

第十一條 價ヲ定メサル前ニ裁判長官或ハ其
代理人ハ勘定書ヲ「^{検事}ミニステール」ビウブリーク
ノ手ニ渡し而テ「ミニステール」ビウブリーク
ノ見ヲ問フヘシ「ミニステール」ビウブリーク及
ヒ裁判官ハ勘定書ヲ取調ヘル時ニソレニ関
係スル各人ヲ呼出スノ權アルモノナリ「ミ
ニステール」ビウブリーク及ヒ裁判官ハ勘定
書ノ一條毎ニ入念調査ヲナスヘシ此勘定
書ニ記載セシ事件ハ要用ノ「ナルカ」又本人

ノ願ヒシトカ或ハ願ハサルトカノテールハ
其ノ全ク為サブルトヲ書キ込ミシカ又未タ
拂ハサルトヲ前拂セシト認メアルカ其レ等
不適當ナル庶_レ或謝金ヲ不適當ニ増シタ
ルトアレハ悉ク認メ直ス可シ

第十二條 價ヲ定ムル時ニ違算アル金高ハ連

抹シ紙末餘白ノ処へ改テ書入レヲナスベシ

ハ調査相済シ時勅定書ノ下ヲニ蒙許ノ金

カ_ニ高_ニ決定セシト云言葉 数字ヲ認メスヲ認メ裁判

官_ニ此ニ調印ヲナスベシ 又其下ヲニ此ノ金

高ヲ拂フベキ事ト認ムヘシ而テ此ノ調査
ノ_レ及ヒ其決定セシ金高ヲ裁判所ノ記録
へ書留メ置クベシ

第十三條 一ノテールハ價ヲ定ムル事ニ付再度ノ

調査ヲ裁判官ニ願フ_レヲ得ベシ然レモ必ス

最初ノ調査ヲナセシ役所ニ於テ取調フヘキ

トトス此ノ再調ハ願書ヲ以テ願出ツベシ而

テ裁判官ハ此ノ勅定書ニ關係ノ人々ヲ呼出

シ其弁解ヲ聞クベシ然後_レ一ミニステールヒ

ツブリ_レク_レニ於テモ裁判官ノ判断ニ同意ス

同法

レハ即其判断ヲナシ而テ此事ヲ記録ニ記載
シ置クベシ

第十四條 裁判官價ヲ定メシコトヲ書記役所ノ
記録ニ書入ル、コトハ無税ナリ

第十五條 裁判官ノ初メノ調査或ハ再度ノ調
査ヲ以テ証書ヲ頼ミシ本人ニ勅定ヲ拂フヘ
キコトヲ迫テ督促スヘシ

第十六條 証書ノ本人ハ裁判官ノ命令書オト
未節ニ云勅定書中此金高ヲ受ル時之ニ對シ
ヲ可拂事ト認メルコト拒ムコトヲ得ヘシ然レ氏此ノ拒ミハ必ス命

令書ヲ出シタル裁判所ニ訴フヘキコトス而
テ裁判官ハ「ミス」テールピウプリークノ意見
ヲ聞シ上ニテ結局ノ判断ヲナスナリ

第十七條 此ノ結局ノ判断ニ付テハ最早拒ム
コトヲ得ス又控訴ヲ為スコトヲ得ガルナリ

第十八條 此ノ各條ノ規則ハ第七年即千七百
九十八年三月廿二日ノ定規「ノテール」ト裁判
所ノ書記役及ヒ其小吏ト立會覺賣ノ事件
ニハ採用セサルコトナリ而テ其覺賣ニ付テ
ハ「ノテール」ハ古キ定規即七年三月依テ謝金廿二日ノ定規

百フランニ付
ニフランシヲ取ルベシ而テ如シ此謝金ニ
付議論アレハ「アルロンダスマン」ノ裁判長官
價ヲ定ムルモノナリ且ツ此規則ハ官ノ新開
紙ヲ以テ公告シ諸官省ノ長官及ヒ関係ノ
官吏ハ此規則ノ細密ニ行ハル「」ニ注意
尽カスヘシ

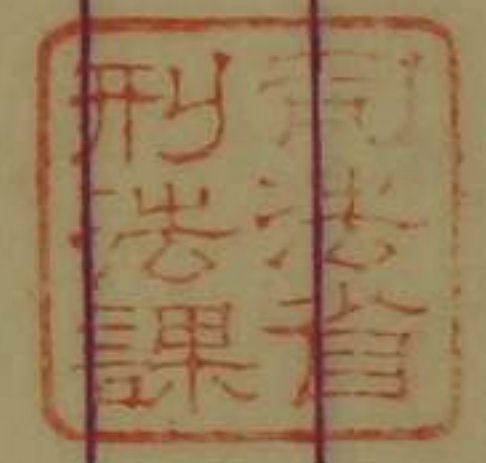
千八百四十七年三月三十一日ハーグニ於テ

王名華押

国王ノ書記局ノ長官姓名華押

千八百四十七年四月十日布告

国王ノ書記局ノ長官姓名華押



刑部
刑部
刑部

